

の一法いつぽうに身みと心こころとを分別ぶんべつし。生死しやうじと涅槃ねはんとをわくことあらんや。すでに佛子ぶつしなり。外道げだうの見けんをかたる狂人きやうじんの舌したの響ひびきを耳みみにふるることなかれ。とふていはく。この坐禪ざぜんを專もせん人ひと。かならず戒律かいりつを嚴淨ごんじやうすべしや。しめじていはく。持戒ちかい梵行ぼんぎやうは。すべはち禪門ぜんもんの規矩ききくなり。佛祖ぶつその家風かふうなり。いまだ戒かいをうけず。又また戒かいをやぶれるもの。その分ぶんなきにあらず。とふていはく。この坐禪ざぜんをつとめん人ひと。さらに眞言しんごん止觀しくわんの行ぎやうをかね修しゆせん。さまたげあるべからずや。しめじていはく。在唐ざいたうのとき。宗師しゆしに眞訣しんけつを聞きき

し因いちなみに。西天さいてん東地とうちの古今ここんに佛印ぶついんを正傳しやうてんせし諸祖しよそ。いづれも未まだ爾しかのごときごときの行ぎやうをかね修しゆすときかすといひき。まことに一事いっさいをこととせざれば。一智いつちに達たつすることなし。とふていはく。この行ぎやうは在俗ざいぞくの男女なんによもつとむべしや。ひとり出家人しほつけにんのみ修しゆするか。しめじていはく。祖師そしのいはく。佛法ぶつぽふを會あすること。男女なんによき貴賤きせんをえらぶべからずとさこゆ。とふていはく。出家人しほつけにんは。諸縁しよえんすみやかになれて。坐禪ざぜん辨道べんだうにさはりなし。在俗ざいぞくの繁務はんむは。いかにしてか一向いっかうに修行しゆぎやうして。無爲むゐの佛道ぶつだうにかなはん。しめじていはく。

おほよそ佛祖ぶつそあわれみのあまり。廣大くわうだいの慈門じもんをひらきさち
 けり。これ一切衆生いっさいしゆじやうを證入しょうにふせしめんがためなり。人天にんてんた
 れかいらざらんものや。ここをもて古今こかしまをたづぬるに。
 その證しょうこれ多し。しばらく代宗順宗たいそうじゆんそうの帝位ていゐにして。萬機ばんき
 いとしげかりし。坐禪辨道ざぜんべんだうして佛祖ぶつその大道だいたうを會通あひつうす。李り
 相國せうこく。防相國ぼうせうこくともに輔左ほさの臣位しんゐにはんべりて。一天いつてんの股こ
 肱こたりし。坐禪辨道ざぜんべんだうして。佛祖ぶつその大道だいたうに證入しょうにふす。ただこ
 れ志こころざしのありなしによるべし。身の在家出家さいけしゆつがにはかかは
 らじ。又またふかくことの殊劣しゆれつをわきまふる人ひと。おのづから

信しんずることあり。いはんや世務せむは佛法ぶつぽふを障さゆと思おもへるも
 のは。ただ世中せちうに佛法ぶつぽふなしとのみしりて。佛中ぶつちうに世法せほふな
 きことをいまだしらざるなり。ちかごろ大宋たいそうに馮相公へうせうこうと
 いふありき。祖道そだうに長ちやうぜりし大官たいくわんなり。のちに詩しをつく
 りて自らみづかをいふにいはく。公事こうじ之餘のよ喜ぎ坐禪ざぜん少このむ會かつて
 將わきをもちて脇じやうにいたつて眠ねむることまれなり。雖しかも然さう現げん出しゆつ宰さい官くわん相さう長ちやう老らう之の名な四し
 海かい傳につとふ。これは官務くわんむひまなかりし身みなれども。佛道ぶつだうにここ
 るざしふかければ。得道とくだうせるなり。佗たをもてわれをかへ
 りみ。古こをもて今いまを鑑かみるべし。大宋國たいそうこくには。いまのよ

の國王大臣。士俗男女。ともに心を祖道にとどめずといふ
 ことなし。武門文家。いづれも參禪學道をこころざせり。
 こころざすもの。かならず心地を開明することおほし。
 これ世務の佛法をさまたげざる。おのづからしられたり。
 國家に眞實の佛法弘通すれば。諸佛諸天ひまなく衛護す
 るがゆえに。王化太平なり。聖化太平なれば。佛法その
 ちからをうるものなり。又釋尊の在世には。逆人邪見道
 を得き。祖師の會下には。獵者樵翁さとりをひらく。い
 はんやそのほかの人をや。ただ正師の教道をたづぬべし。

とふていはく。この行は。いま末代惡世にも修行せば。
 證をうべしや。しめしていはく。教家に名相をこととせ
 るに。なほ大乘實教には。正像末法をわくことなし。修
 すればみな得道すといふ。いはんや。この單傳の正法に
 は。入法出身。おなじく自家の財珍を受用するなり。證
 の得否は。修せんものおのづからしらんこと。用水の人
 の冷煖をみづから辨ふるがごとし。とふていはく。あるが
 いはく。佛法には即心是佛のむねを了達しぬすがごとし
 は。口に經典を誦せず。身に佛道を行せざれども。あへ

て佛法ぶつぽうにかけたるところなし。ただ佛法ぶつぽうはもとより自己じこにありしる。これを得道とくだうの全圓ぜんゑんとす。このほか更に佗た人にむかひてもとむべきにあらず。いはんや坐禪ざぜん辨道べんだうをわづらはしくせんや。しめしていはく。このことは最もはかなし。もし汝なんぢがいふ如ごとくならば。このころあらんもの。誰たれかこの旨ねがををしへんに。しることなからん。しるべし佛法ぶつぽうはまさに自佗じたの見けんをやめて學がくするなり。もし自己じこ即佛そくぶつとしるをもて得道とくだうとせば。釋尊しやくそんむかし化道けだうにわづらはじ。しばらく古德ことくの妙則めうそくをもて。これを證しょうすべし。むかし則そく

公監院こうかんゐんといふ僧そう。法眼禪師はふげんぜんじの會中ゑちゆうにありしに。法眼禪師はふげんぜんじとふていはく。則監寺そくかんす。なんぢわが會ゑにありていくばくのとさぞ。則公そくこうがいはく。われ師しの會ゑにはんべりて。すでに三年さんねんをへたり。禪師ぜんじのいはく。なんぢはこれ後生ごしやうなり。なんぞつねにわれに佛法ぶつぽうをとほざる。則公そくこうがいはく。某それがし和尚おしやうをあざむくべからず。かつて青峰せいほう禪師ぜんじのところそこにありしとき。佛法ぶつぽうにあきて安樂あんらくのところを了達れうたつせり。禪師ぜんじのいはく。なんぢいかなることばによりてか入いることを得えし。則公そくこうがいはく。それがしかつて青峰せいほうにとひき。

いかなるかこれ學人の自己なる。青峰のいはく。丙丁童子
 來求火。法眼のいはく。よきことばなり。たゞしおそらく
 はなんぢ會せざらんことを。則公がいはく。丙丁は火に
 屬す。火をもてさらに火をもとむ。自己をもて自己をも
 とむるににたりと會せり。禪師のいはく。まことにしり
 ぬ。なんぢ會せざりけり。佛法もしかくのごとくならば。
 今日までに傳はれじ。ここに則公慄慄して。すなはち起
 ぬ。中路にいたりておもひき。禪師はこれ天下の善知識。
 又五百人の大導師なり。わが非をいさむる。さだめて長

處あらん。禪師のみ許にかへりて。懺悔禮謝してとふて
 いはく。いかなるかこれ學人の自己なる。禪師のいはく。
 丙丁童子來求火と。則公この言の下に大きに佛法をさと
 りき。あきらかにしりぬ。自己即佛の領解をもて。佛法
 をしれりといふにはあらずといふことを。もし自己即佛
 の領解を佛法とせば。禪師さきのことばをもて導かじ。
 又しかのごとくいましむべからず。ただまさはじめ善
 知識をみんより。修行の儀則を咨問して。一向に坐禮辨
 道して。一知半解を心にとどむることなかれ。佛法の妙

術じゆつそれむなしからじ。とふていはく。乾唐けんたうの古今ここんをさく
に。あるひは竹たけの聲こゑを聞ききて道みちをさとり。あるひは花はなの
色いろを見て心こころを明あきらむるものあり。いはんや釋迦しやくだ大師だいしは。明
星じやうをみしとき道だうを證しょうし。阿難あなん尊者そんじやは刹竿せつかんの倒たふれしところ
に法はふをあきらめしのみならず。六代ろくだいよりのち。五家ごけのあ
いだに。一言半句いちごんはんくの下したに。心地しんちをあきらむるものおほし。
彼等かれらかならずしもかつて坐禪ざぜん辨道べんだうせるもののみならんや。
しめしていはく。古今ここんに見色明心けんしきめうしんし。聞聲悟道もんしやうたうせし當人たうじん。
ともに辨道べんだうに擬議量ぎぎりやうなく。直下ちきげに第二人だいににんなさことをしる

べし。とふていはく。西天さいてんおよび神丹國しんたんこくは。人ひともとより
質直しつちきなり。中華ちゆうくわのしからしむるによりて。佛法ぶつぽふを教化けうけす
るに。いとはやく會入わいふす。我朝わがてうはむかしより人ひとに仁智にちす
くなくして。正種しやうしゆつもりがたし。番夷ばんいのしからしむる。
うらみざらんや。又またこの國くにの出家人しゆつげにんは。大國たいこくの在家人ざいけにんに
もおとれり。舉世きよせおろかにして心量しんりやう狭少けうせうなり。ふかく有
爲ゐの功こうを執しゆして事相じさうの善ぜんをこのむ。かくのごとくのやか
ら。たとひ坐禪ざぜんすといふとも。たちまちに佛法ぶつぽふを證得しょうとくせ
んや。しめしていはく。いふがごとし。わがくにの人ひと

まだ仁智あまねからず。人また迂曲なり。たとひ正直の法をしめすとも。甘露かへりて毒となりぬべし。名利にはおもむきやすく。惑執鎔けがたし。しかはあれども。佛法に證入すること。かならずしも人天の世智をもて。出世の舟航とするにはあらず。佛在世にも毘尼によりて四果を證し。袈裟をかけて大道をあきらめし。ともに愚暗のやから。癡狂の畜類なり。ただし正信のたすくるところ。惑を離るるみちあり。また癡老の比丘默坐せしをみて。設齋の信女さとりをひらさし。これ智によらず。

文によらず。言をまたず。語をまたず。ただしこれ正信にたすけられたり。また釋教の三千界にひろまること。わづかに二千餘年の前後なり。刹土の種々なる。かならずしも仁智の國にあらず。人またかならずしも利智聰明のみあらんや。しかあれども如來の正法。もとより不思議の大功德力をそなへて。時到ればその刹土にひろまる。人まさに正信修行すれば。利鈍をわかず。ひとしく得道するなり。わが朝は。仁智のくににあらず。人に智解あるかなりとして。佛法を會すべからずとおもふことなか

れ。いはんや人みな般若の正種ゆたかなり。ただ承當することまれに。受用すること未しきならし。ささの問答往來し。賓主相交すること。みだりがはじ。いくばくか花なき空に花をなさしむる。しかあれども。このくに坐禪辨道におきて。いまだその宗旨つたはれず。しらんとこころささんもの。かなしむべし。このゆえに。いさか異域の見聞をあつめ。明師の真訣をしるしとどめて。參學のねがはんに聞えんとす。このほか叢林の規範。ちよひ寺院の格式。いましめすに違あらず。又草草にすべか

らず。おほよそ我朝は龍海の以東にところして。雲煙はるかなれとも。欽明用明の前後より。秋方の佛法東漸する。これすなはち人のさいはひなり。しかあるを名相事縁しげくみだれて。修行のところにわづらふ。いまは破衣綴盃を生涯として。青巖白石のほとりに茅をむすんで。端坐修練するに。佛向上の事たちまちにあらはれて。一生參學の大事。すみやかに究竟するものなり。これすなはち龍牙の誠教なり。雞足の遺風なり。その坐禪の儀則は。すぎぬる嘉祿のころ撰集せし普勸坐禪儀に依行すべ

◎辨道話

一七〇

し。それ佛法を國中に弘通すること。王敕をまつべしといへども。ふただひ靈山の遺屬をおもへば。いま百萬億刹に現出せる王公相將。みなともにかたじけなく佛敕をうけて。夙生に佛法を護持する素懷をわすれず。生來せるものなり。その化を布く境。いづれのところか佛國土にあらざらん。このゆゑに佛祖の道を流通せん。かならずしも處をゑらび。縁をまつべきにあらす。ただ今日をはじめとちもはんや。しかあればすなはち。これをあつめて。佛法をねがはん哲匠。あはせて道をとふらひ

雲遊萍寄せん參學の眞流にのこす。とさじ。

寛喜辛卯中秋日

入宋傳法沙門道元記

辨道話(畢)

◎辨道話

一七一

◎法華轉法華

(正法眼藏法華轉法華)

承陽大師

十方佛土中は。法華の唯有なり。これに十方三世一切諸佛の阿耨多羅三藐三菩提衆は。轉法華あり。法華轉あり。これすなはち本行菩薩道の不退不轉なり。諸佛智慧甚深無量なり。難解難入の安詳三昧なり。あるひはこれ文殊師利として。大海の佛土なる。唯佛與佛の如是相あり。あるひはこれ釋迦牟尼佛として。唯我知是相。十方佛亦然

なる。出現於世あり。これすなはち我及十方佛。乃能知是事と。欲令衆生開示悟入せしむる一時なり。あるひはこれ普賢として。不可思議の功德なる。法華轉を成就し。甚大久遠なる。阿耨多羅三藐三菩提を。閻浮提に流布せしむるに。三艸二木。大小諸樹を能生する地なり。能潤する雨なり。法華轉を所不能知に。盡行成就なるのみなり。普賢の流布いまだをばらざるに。靈山の大會さたる。普賢の往來する。釋尊これを白毫相光と證す。釋迦の佛會いまだなかばにあらざるに。文殊の惟付すみやかに彌

勸に授記する法華轉あり。普賢諸佛文殊の大會。ともに
 初中後善の法華轉を知見波羅蜜なるべし。このゆゑに。
 唯一乘法唯以一大事として。出現せるなり。この出現
 すなはち一大事なるがゆゑに。唯佛與佛。乃能究盡。諸法
 實相とあるなり。その法かならず一佛乘にして。唯佛さ
 だめて。唯諸に究盡せしむるなり。諸佛七佛。をのく
 諸佛に究盡せしめ。釋迦牟尼佛に。佛就せしむるなり。
 西天竺。東震旦にいたる。十方佛土中なり。三十三祖大
 鑑禪師にいたるも。すなはち究盡にてある唯佛一乘法な

り。唯以のさだめて一大事なる一佛乘法なり。いま出現
 於世なり。出現於此なり。青原の佛風いまにつたはり。
 南嶽の法門。世に開演する。みな如來如實知見なり。ま
 ことに唯佛與佛の究盡なり。嫡佛佛嫡の開示悟入なりと。
 法華轉すべし。これを妙法蓮華經ともなづく。教菩薩法
 なり。これを諸法となづけきたれるゆゑに。法華を國土
 として。靈山もあり。虚空もあり。大海もあり。大地も
 あり。これすなはち實相なり。如是なり。法住法位なり。
 一大事因縁なり。佛之知見なり。世相常住なり。如實な

り。如來壽量なり。甚深無量なり。諸行無常なり。法華
 三昧なり。釋迦牟尼佛なり。轉法華なり。法華轉なり。
 正法眼藏涅槃妙心なり。現身度生なり。授記作佛なる保
 任あり。住持あり。

大唐國廣南東路韶州曹谿山寶林寺大鑑禪師の會に。法達
 といふ僧いたれり。みづから稱す。法華經を讀誦す
 ること。すでに三千部なり。祖いはく。たとひ萬部に
 をよぶとも。經を得ざらんは。とがをしるにもをよば
 ざらん。法達いはく。學人は愚鈍なり。從來たゞ文字

にまかせて誦念す。いかでか宗趣をあきらめん。祖い
 はく。なんぢ。こゝろみに一遍を誦すべし。われなんぢ
 がために解説せん。法達すなはち誦經す。方便品にいた
 りて。祖いはく。とゞまるべし。この經は。もとより因
 縁出世を宗旨とせり。たとひ。多くの譬諭をとくも。
 これよりこゆることなし。何者因縁といふに。唯一大
 事なり。唯一大事は。即佛知見なり。開示悟入なり。お
 のづからこれ佛之知見なり。已具知見。彼既是佛なり。
 なんぢいままさに信ずべし。佛知見者。只汝自心なり。

かさねてしめす偈にいはいはく。心迷法華轉。心悟轉法華。誦久不明己。與義作讐家。無念念即正。有念念成邪。有無俱不計。長御白牛車。法達すなはち偈をさきて。かさねて祖にまうす。經にいはいはく。諸大聲聞。乃至菩薩。みな盡思度量するに。佛智はかることあたはず。いま凡夫をしてたゞし自心をさとらしめんを。すなはち佛之知見となづけん。上根にあらずよりは。疑謗をまぬがれがたし。又經に三車をとくに。大牛車と白牛車と。いかなる區別があらむ。ねがはくは和尚ふたゞび宣説をたれんを

とを。祖のいはく。經意はあきらかなり。汝おのづから迷背す。諸三乘人の。佛智をはかることあたはざる患は。度量にあるなり。たとひかれら盡思共推すとも。うたゝ懸遠ならん。佛は本爲凡夫説のみなり。不爲佛説なり。この理を信ずること不肯にして。退席するともがら。ことにしらす白牛車に坐しなから。さらに門外にして。三車をもとむることを。經文あきらかに備にむかひていふ。無二亦無三と。備いかゞとらざる。三車はこれ假なり。昔時なるかゆるに。一乘はこれ實なり。今時

なるがゆゑに。たゞ憍なんぢをして假けをさり。實じつに歸きせしむ。歸實きじつの後のち。實じつも名ななし。しるべし。所有しやうはみな珍寶ちんぼうなり。盡ことごとくく憍なんぢに屬ぞくす。由いふニ汝受用にょじゆようなり。さらに父想ふそうならず。また子想しそうならず。また用想ようそうなしといへども。これを法華經ほふけきやうとなづくるなり。劫ごふより劫ごふにいたり。晝ちゆうより夜やにいたるに。手不しゆふ釋しやく。卷くわんなれども。誦念じゆねんにあらざるとさなきなり。法達ほふたつすでに啓發けいぱつをかうむりて。踊躍ゆやく歡喜くわんぎして。偈げを呈ていし讚さんしていはく。經誦きやうじゆわんせんぶ三千部さんせんぶ。曹谿そうけい一句亡いつくばう。未み明めい出世旨しゆつせし。寧歇ねいけつ累生るゐしやう。狂きやう羊鹿牛やうろくご權設こんせつ。初中しゆちゆう後善揚ごせんやう。誰知ずゐち火

宅内たくない元是法中王ぐわんじほふちゆうわう。この偈げを呈ていするに。祖そいはく。汝なんぢいまよりは念經僧ねんきやうそうとなづけつべし。法達禪師ほふたつぜんじの曹谿そうけいに參さんぜし因緣いんえんかくのごとし。これより法華轉ほふけてんと轉法華てんほふけとの法華ほふけは開演かいえんするなり。それよりさきはさかず。まことに佛之知ぶつしち見けんをあきらめんことは。かならず正法眼藏しやうほふげんざうならん。佛祖ぶつそなるべし。いたづらに沙石しゃせきをかぞふる文字もんじの學者がくしやは。しるべきにあらずといふことを。いまこの法達ほふたつの從來じゆうらいにてもみるべし。法華ほふけの正宗しやうしゆをあきらめんことは。祖師そしの開かい示じを唯一ゆゐちだいらじ大事だいじん因緣いんえんと究盡くわうじんすべし。餘乘よじやうにとふらはんとす

ることなかれ。いま法華轉の實相實性實體實力實因實果の如是なるは。祖師より以前には。震旦國にいたるは。ざるどころ。いまだあらざるどころなり。いはゆる法華轉といふは。心迷なり。心迷すなはち法華轉なり。しかあればすなはち心迷は法華に轉ぜらるゝなり。その宗趣は。心迷たとひ萬像なりとも。如是相は法華に轉ぜらるゝなり。この轉ぜらるゝ。よろこぶべきにあらず。まづべきにあらず。得るにあらず。きたるにあらず。しかあれども法華轉は。すなはち無二亦無三なり。唯一佛乘。

如是相の法華にてあれば。能轉所轉といへども。一佛乘なり。一大事なり。唯以の赤心片片なるのみなり。しかあれば心迷をうらむることなかれ。汝等所行。是菩薩道なり。本行菩薩道の。奉觀於諸佛なり。開示悟入みな各各の法華轉なり。火宅に心迷あり。當門に心迷あり。門外に心迷あり。門内に心迷あり。心迷に門内門外。乃至當門火宅等を現成せるがゆゑに。白牛車のうへにも開示悟入あるべし。この車上の莊校として入を存せんとさ。露地を所入とや期せん。火宅を所出とや認ぜん。當門は

經歷のところがなるとのみ究盡すべきか。またにしるべし。
 くるまのなかに火宅を開示悟入せしむる轉もあり。露地
 に火宅を開示悟入せしむる轉もあり。當門の全門に開示
 悟入を轉ずるあり。普門の一門に開示悟入を轉ずるあり。
 開示悟入の各々に。普門を開示悟入する轉あり。門内に
 開示悟入を轉ずるあり。門外の開示悟入を轉ずるあり。
 火宅に露地を開示悟入するあり。このゆゑに火宅も不
 なり。露地も不識なり。輪轉三界を。たれがくるまと一
 乗せん。開示悟入を、たれが門なりと出入せん。火宅よ

りくるまをもとむれば。いくばくの輪轉ぞ。露地より火
 宅をのぞめば。そこばくの深遠のみなり。露地に靈山を
 安穩せりとや究盡せん。靈山に露地の平坦なるとや修行
 せむ。衆生所遊樂を我淨土不毀と常在せるをも。審細に
 本行すべきなり。一心欲見佛は。みづからなりとや參究
 する。他なりとや參究する。分身と成道せしときあり。
 全身と成道せしときあり。俱出靈鷲山は。身命を自惜せ
 ざるによりてなり。常住此說法なる開示悟入あり。方便
 現涅槃なる開示悟入あり。而不見の雖近なる。たれが一

心の會不會を信ぜざらん。天人常充滿のところは。す
 なはち釋迦牟尼佛。毘盧舍那の國土。常寂光土なり。を
 のづから四土に具するわれら。すなはち如一の佛土に居
 するなり。微塵をみるとき法界をみざるにあらず。法界
 を證するに微塵を證せざるにあらず。諸佛の界法を證す
 るに。われらを證するにあざらしむるにあらず。その
 初中後善なり。しかあればいまも證の如是相なり。驚疑
 怖畏も如是にあざるなし。たゞこれ佛之知見をもて。
 微塵をみると。微塵に坐することなるのみなり。法

界に坐するとき廣にあらず。微塵に坐するとき狭きにあ
 らざるゑへは。保任にあざれば坐すべからず。保任す
 るには廣狹に驚疑なきなり。これ法華の體力を究盡せる
 によりてなり。しかあればわれらがいまの相性。これ法
 界に本行すとやせん。微塵に本行すとやせん。驚疑なし。
 怖畏なし。たゞ法華轉の本行なる深遠長遠なるのみなり。
 この微塵をみると法界をみると。有作有量にあざるな
 り。有量有作も。法華量をならひ法華作をならふべし。
 開示悟入をさかむには。欲令衆生とさくべし。いはゆ

る開佛知見かいぶつちけんの法華轉ほふげてんなる。示佛知見じぶつちけんにならふべし。悟佛ごぶつちけん知見ちけんの法華轉ほふげてんなる。入佛知見にふぶつちけんにならふべし。示佛知見じぶつちけんの法華轉ほふげてんなる。悟佛知見ごぶつちけんにならふべし。かくのごとく。開佛知見かいぶつちけんの法華轉ほふげてんなる。悟佛知見ごぶつちけんにならふべし。おほよそ示悟入じごにふほふげてんの法華轉ほふげてん。おのゝく究盡くちうじんのみあるべし。おほよそこの諸佛如來しよぶつにらうの知見波羅蜜ちけんぱらみつは。廣大深遠くわうだいしんえんなる法華轉ほふげてんなり。授記じゆきはすなはち自己じこの開佛知見かいぶつちけんなり。他のさづくるにあらざる法華轉ほふげてんなり。これすなはち心迷法華轉しんまいほふげてんなり。心悟轉法華てんほふげてんといふは。法華を轉ずるといふなり。いはゆる法華ほふげのわれらを轉ずるちから究盡くちうじんするときに。かへりてみ

づから轉ずる如是力によせりきを現成げんじやうするなり。この現成げんじやうは。轉法華てんほふげなり。從來じゆらいの轉てんいまもさらにやむことなしといへども。あつからかへりて法華を轉ずるなり。驢事ろじいまだおはらざれとも馬事ばじ到來たうらいする。出現しゆつげん於此こゝの唯ゆゐ以い一大事いちだいじ因緣いんえんなり。地涌千界ちゆせんかいの衆しゆ。ひさしき法華ほふげの大聖尊だいしやうそんなりといへども。みづからに轉せられて地涌ちゆす。地涌ちゆのみを轉法華てんほふげすべからず。虚空涌こくうゆをも轉法華てんほふげすべし。地空ちくうのみにあらず。法華涌ほふげゆとも佛知ぶつちすべし。おほよそ法華ほふげの時ときは。かならず父少而子老ふせうにしらうなり。子この子こにあらざるにはあらず。父ちちの父ちち

にあらざるにはあらず。まさに子は老なり。父は少なり
 とならふべし。世の不信にならふて。おどろくことなか
 れ。世の不信なるは。法華の時なり。これをもて一時佛
 住を轉法華すべし。開示悟入に轉ぜられて地涌し。佛之
 知見に轉ぜられて地涌す。この轉法華のとき。法華の心
 悟あるなり。心悟の法華あるなり。あるひは下方といふ。
 すなはち空中なり。この下この空。すなはち轉法華なり。
 すなはち佛壽量なり。佛壽と法華と法界と一心とは。下
 とも現成し。空とも現成すると轉法華すべし。かるがゆ

ゑに下方空といふに。すなはち轉法華の現成なり。おほ
 よそこのとき法華を轉じて三州ならしむることあり。法
 華を轉じて二木ならしむることあり。有覺とまつべきに
 あらず。無覺とあやしむべきにあらず。自轉して發菩提
 心なる時。すなはち南方なり。この成道もとより南方に
 集會する靈山なり。靈山かならず轉法華なり。虚空に集
 會する十方佛土あり。これ轉法華の分身なり。すでに十
 方佛土と轉法華す。一微塵のいるべきところなし。色即
 是空の轉法華あり。若退若出にあらず。空即是色の轉

法華あり。無有生むうしやうじ死しなるべし。在世さいせといふべからず。滅度めつどのみにあらんや。われわれに親友しんいうなるは。われもかれに親友しんいうなり。親友しんいうの禮勤らいこんわするべからざるゆゑに。髻珠けいじゆをもあたふ。衣珠えじゆをもあたふる時節じせつ。よくよく究盡くうじんすべし。佛前ぶつぜんに寶塔ほうたふある轉法華てんほふけあり。高五百由旬かうごひやくゆじゆんなり。塔中たふちうに佛坐ぶつざする轉法華てんほふけあり。量二百五十由旬りやうにひやくごじふじゆんなり。從地涌出じゆうちゆしゆつちゆうさい住空中くうちうの轉法華てんほふけあり。心しんも罽毘けいひなし。色しきも罽毘けいひなし。從空涌出ゆしゆつちゆうさい住地中ちちうの轉法華てんほふけあり。眼まなこにもさへらる。身みにもさへらる。塔中たふちうに靈山りやうせんあり。靈山りやうせんに寶塔ほうたふあり。寶塔ほうたふは虚空こくう

に寶塔ほうたふし。虚空こくうは寶塔ほうたふを虚空こくうす。塔中たふちうの古佛こぶつは。座ざを靈山りやうせんの佛ほとけにならべ。靈山りやうせんの佛ほとけは。證しょうを塔中たふちうの佛ほとけに證しょうす。靈山りやうせんのほとけ。塔中たふちうに證入しょうにふするには。すなはち靈山りやうせんの依正えしやうながら。轉法華てんほふけ入にふするなり。塔中たふちうのほとけ。靈山りやうせんに涌出ゆしゆつするには。古佛こぶつ土どながら。久滅度きうめつどながら。涌出ゆしゆつするなり。涌出ゆしゆつも轉入てんにふも。凡夫ぼんぶ二乘にじやうにならばされ。轉法華てんほふけを學がくすべし。久滅度きうめつどは。佛上ぶつじやうにそなはれる。證莊嚴しょうしやうこんなり。塔中たふちうと佛前ぶつぜんと寶塔ほうたふと虚空こくうと靈山りやうせんにあらず。法界ほふかいにあらず。半段はんだんにあらず。全界ぜんかいにあらず。是法位ぜほふゐのみにかゝはれず。非

思量なるのみなり。或現佛身而爲說法。或現此身而爲說法。法なる轉法華あり。或現提婆達多なる轉法華あり。或現退亦佳矣なる轉法華あり。合掌瞻仰待。かならず六十小劫とはかることなかれ。一心待の量をつゝめて。しばらく無量劫といふとも。なほこれ不能測佛智なり。待なる一心。いく佛智の量とかせん。この轉法華は。本行菩薩道のみなりと認ずることなかれ。法華一座のとる。今日如來說大乘と轉法華なる功德なり。法華のいまし法華なる。不覺不知なれども。不識不會なり。しかあれば五

百塵點は。しばらく一毛許の轉法華なり。赤心片片の佛壽の開演せらるゝなり。をほよそ震旦にこの經つたはれ。轉法華してよりこのかた數百歲あるひは疏釋を作るともからまゝにしげし。又この經によりて上人の法を得るもあれども。いまわれらが高祖曹谿古佛のごとく。法華轉の宗旨を得たるなし。轉法華の宗旨つたふあらず。いまこれをさし。いまこれにあふ。古佛の古佛にあふにあへり。古佛土にあらざらんや。よろこぶべし。劫より劫にいたるも法華なり。晝より夜にいたるも法華なり。法

華これ從劫至劫なるがゆゑに。法華これ乃晝乃夜なるが
 ゆゑに。たとひ自の身心を強弱すとも。さらにこれ法華
 なり。あらゆる如是は珍寶なり。光明なり。道場なり。
 廣大甚遠なり。深大久遠なり。心迷法華轉なり。心悟轉
 法華なり。實にこれ法華轉法華なり。
 心迷法華轉。心悟轉。法華。究盡能如是。法華轉法華。かく
 のごとく。供養恭敬尊重讚歎する。法華是法華なるべし。
 正法眼藏法華轉法華

仁治二年辛丑。夏安居日。これをかきて慧達禪人にさ

づく。これ出家修道を感喜するなり。たゞ鬚髮をそる。
 なほ好事なり。かみをそり又かみをそる。これ眞の出
 家兒なり。今日の出家は。從來の轉法華の如是力の如
 是果報なり。いまの法華。かならず法華の法華果あら
 ん。釋迦の法華にあらず。諸佛の法華にあらず。法華
 の法華なり。ひごろの轉法華は。如是相も不覺不知に
 かははり。しかあれども。今の法華。さらに不識不
 會にあらはる。昔時も出息入息なり。今時も出息入息な
 り。これを妙難思の法華と保任すべし。

觀音導利院興聖寶林寺入宋傳法沙門道元記

法華轉法華（畢）

○生死（正法眼藏生死）

承陽大師

生死（しやうじ）のなかに佛（ぼつ）あれば。生死（しやうじ）なし。またいはく。生死（しやうじ）の
 なかに佛（ぼつ）なければ。生死（しやうじ）にまどはず。ところは。夾山定（かつさんぢやう）
 山（さん）といはれし。ふたりの禪師（ぜんじ）のことばなり。得道（とくだう）の人の
 ことばなれば。さだめてむなくまうけじ。生死（しやうじ）をはな
 れんとおもはむ人（ひと）。まさにこのむねをあきらむべし。も
 し人生死（ひとしやうじ）のほかにはとけをもとむれば。轉（まかえ）を北（きた）にして越（あつ）

◎生死

にむかひ、面おもてを南みなみにして北斗ほくとをみるとするがごとし。いよいよ生死しやうじの因いんをあつめて、さらに解脱げだつの道みちをうしなへり。ただ生死しやうじすなはち涅槃ねはんとこころえて。生死しやうじとしていとふべきもなく、涅槃ねはんとしてねがふべきもなし。このとぎはじめて生死しやうじをはなるる分ぶんあり。生しやうより死じにうつるところうるは。これあやまりなり。生しやうは一時ひとときの位くらゐにて。すてにさきありのちあり。かるがゆるぎに佛法ぶつぽふのなかには。生即しやうち不生ふしやうといふ。滅めつも一時ひとときの位くらゐにて。またさきありのちあり。之これによりて滅めつすなはち不滅ふめつといふ。生しやうといふと

さには。生しやうよりほかにものなく、滅めつといふときは。滅めつのほかにものなし。かるがゆるぎに生來しやうきたらばただこれ生しやう。滅めつ來きたらばこれ滅めつにむかひて。つかふべしといふことなかれ。ねがふことなかれ。この生死しやうじはすなはち佛ほとけの御おんいのちなり。これをいとひすてんとすれば。すなはち佛ほとけのいのちをうしなはんとするなり。これにとどまりて。生死しやうじに著ちやくすれば。これも佛ほとけの御おんいのちをうしなふなり。佛ほとけのありさまをとどむるなり。いとふことなく。したふことなき。このときはじめて佛ほとけのこころにいる。ただし心こころをもては

◎生死

かることなかれ。ことばをもていふことなかれ。ただ我身をも心をもはなちわすれて。佛のいへになげいれで。佛のかたよりちをなばれて。これにしたがひもてゆくとさ。ちからをもいれず。ところをもついやさずして。生死をはなれ。佛となる。たれの人かところにととほるべき。佛となるにいと易き道あり。もろもろの悪をつくらず。生死に著するところなく。一切衆生のためにあはれみふかくして。上をうやまひ。衆生をあはれみ。よろづをいとふところなく。ねがふところなく。心にももふこと

となく。うれふることなき。これを佛となづく。またほかにたづぬることなかれ。

生死 (畢)

◎修證義 (曹洞教會修證義)

第一章 總序

生を明らめ死を明らむるは。佛家一大事の因縁なり。生
第一節 死の中に佛あれば生死なし。但生死即ち涅槃と心得て。
 生死として厭ふべきもなく。涅槃として欣ふべきもなし。
 是時初めて生死を離るゝ分あり。唯一大事因縁と究盡す
第二節 べし。人身得ること難し。佛法値ふこと稀れなり。今我
 等宿善の助くるに依りて。已に受け難き人身を受けたる

のみに非ず。遇ひ難き佛法に値ひ奉れり。生死の中の善
 生。最勝の生なるべし。最勝の善身を徒らにして。露命
 を無常の風に任すること勿れ。無常憑み難し。知らず露
 命いかなる道第三節の草にか落ちん。身已に私に非ず。命は光
 陰に移されて。暫くも停め難し。紅顔いづくへか去りに
 し。尋ねんとするに蹤跡なし。熟觀ずる所に。往事の
 再び逢ふべからざる多し。無常忽ちに到るときは。國王
だいじんしんぢつじゆうはくさいしちんぼう 大臣親暱從僕妻子珍寶たすくる無し。唯獨り黄泉に趣く
 のみなり。己れに隨ひ行くは。唯是れ善惡業等のみなり。

今の世に因果を知らず。業報を明らめず。三世を知らず。
第四節 善悪を辨まへざる邪見の黨侶には群すべからず。大凡因果の道理歴然として私なし。造悪の者は墮ち。修善の者は陞る。毫釐も忒はざるなり。若し因果亡じて虚しからんが如きは。諸佛の出世あるべからず。祖師の西來あるべからず。
第五節 善悪の報に三時あり。一者順現報受。二者順次生受。三者順後次受。これを三時といふ。佛祖の道を修習するには。其最初より斯三時の業報の理を効ひ驗らむるなり。爾あらざれば。多く錯りて邪見に墮つるなり。

り。但邪見に墮つるのみに非ず。惡道に墮ちて長時の苦を受く。當に知るべし今生の我身二つ無し三つ無し。徒らに邪見に墮ちて。虚く惡業を感得せん。惜からざらめや。惡を造りながら。惡に非ずと思ひ。惡の報ある可らずと邪思惟するに依りて。惡の報を感得せざるには非ず。

第二章 懺悔滅罪

佛祖憐みの餘り。廣大の慈門を開き置けり。是れ一切衆生を證入せしめんが爲めなり。人天誰か入らざらん。彼の三時の惡業報。必ず感ずべしと雖も。懺悔するが如き

は。重さを轉じて輕受せしむ。又滅罪清淨ならしむるなり。然第八節あれば誠心を専らにして前佛に懺悔すべし。恚麼いんりするとき。前佛懺悔の功德力。我を拯ひて清淨ならしむ。此功德能く無礙の淨信精進を生第九節長せしむるなり。淨信一現するとき。自佗同く轉ぜらるゝなり。其利益普ねく情非情に蒙ぶらしむ。其大旨は。願くは我れ設第十節ひ過去の惡業多く重なりて。障道の因縁ありとも。佛道に因りて得道せりし諸佛諸祖。我を愍みて業累を解脱せしめ。學道障り無からしめ。其功德法門。普ねく無盡法界に充滿

彌綸せられん哀みを我に分布すべし。佛祖の往昔は吾等なり。吾等が當來は佛祖ならん。我昔所造諸惡業。皆由無始貪瞋癡。從身口意之所生。一切我今皆懺悔。是の如く懺悔すれば。必ず佛祖の冥助あるなり。心念身儀發露白佛すべし。發露の力。罪根をして銷殞せしむるなり。

第三章 受戒入位

次には深く佛法僧の三寶を敬第十一節ひ奉るべし。生を易へ身を易へても。三法を供養し敬第十二節ひ奉らんことを願ふべし。西天東土。佛祖正傳する所は。恭敬佛法僧なり。若し薄

福少徳の衆生は。三寶の名字猶ほ聞き奉らざるなり。何に況や歸依し奉ることを得んや。徒らに所逼を怖れて。山神鬼神等に歸依し。或は外道の制多に歸依すること勿れ。彼は其歸依に因りて。衆苦を解脱すること無し。早く佛法僧の三寶に歸依し奉りて。衆苦を解脱するのみに非ず。菩提を成就すべし。其歸依三寶とは。正に淨信を専らにして。或は如來現在世にもあれ。或は如來滅後にもあれ。合掌し低頭して。口に唱へて云く。南無歸依佛。南無歸依法。南無歸依僧。佛は是れ大師なるが故に歸依

す。法は良藥なるが故に歸依す。僧は勝友なるが故に歸依す。佛弟子となること必ず三歸に依る。何れの戒を受くるも。必ず三歸を受けて。其後諸戒を受くるなり。然れば則ち三歸に依りて得戒あるなり。此歸依佛法僧の功德。必ず感應道交するときは成就するなり。設ひ天上人間地獄鬼畜なりと雖も。感應道交すれば。必ず歸依し奉るなり。已に歸依し奉るが如きは。生生世世在在處處に增長し。必ず積功累徳し。阿耨多羅三藐三菩提を成就するなり。知るべし。三歸の功德其れ最尊最上甚深不可思

議なりといふこと。世尊已に證明しなす。衆生當に
 信受すべし。次には應に三聚淨戒を受け奉るべし。第一
 攝律儀戒。第二攝善法戒。第三攝衆生戒なり。次には應
 に十重禁戒を受け奉るべし。第一不殺生戒。第二不偷盜
 戒。第三不邪淫戒。第四不妄語戒。第五不酤酒戒。第六
 不說過戒。第七不自讚毀他戒。第八不慳法財戒。第九不
 瞋恚戒。第十不謗三寶戒なり。上來三歸。三聚淨戒。十
 重禁戒。是れ諸佛の受持したまふ所なり。受戒するが如
 きは。三世の諸佛の所證なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不

壞の佛果を證するなり。誰の智人か欣求せざらん。世尊
 明らかに一切衆生の爲に示します。衆生佛戒を受く
 れば。即ち諸佛の位に入る。位大覺に同し已る。眞に
 是れ諸佛の子なりと。諸佛の常に此中に住持たる。各各
 の方面に知覺を遺さず。群生の長へに此中に使用する。
 各各の和覺に方面露れず。是時十方法界の土地草木。牆
 壁瓦礫。皆佛事を作すを以て。其起す所の風水の利益に
 預る輩。皆甚妙不可思議の佛化に冥資せられて。親さ
 悟を顯はす。是を無爲の功德とす。是を無作の功德とす。

是れ發菩提心なり。

第四章 發願利生

菩提心を發すといふは。己れ未だ度らざる前に。一切衆生を度さんと發願し營むなり。設ひ在家にもあれ。設ひ出家にもあれ。或は天上にもあれ。或は人間にもあれ。苦にありといふとも。樂にありといふとも。早く自未得度先度佗の心を發すべし。其形陋しといふとも。此心を發せば。已に一切衆生の導師なり。設ひ七歳の女流なりとも。即ち四衆の導師なり。衆生の慈父なり。男女を論

ずること勿れ。此れ佛道極妙の法則なり。若し菩提心を發して後。六趣四生に輪轉すと雖も。其輪轉の因縁。皆菩提の行願となるなり。然あれば從來の光陰は設ひ空く過すといふとも。今生の未だ過ぎざる際に。急ぎて發願すべし。設ひ佛に成るべき功德熟して圓滿すべしといふとも。尚ほ廻らして衆生の成佛得道に回向するなり。或は無量劫行ひて。衆生を先に度して。自からは終に佛に成らず。但し衆生を度し。衆生を利益するもあり。衆生を利益すといふは。四枚の般若あり。一者布施。二者愛

語。三者利行。四者同事。是れ則ち薩埵の行願なり。其
 布施といふは貪らざるなり。我物に非ざれども。布施を
 障へざる道理あり。其物の輕さを嫌はず。其功の實なる
 べきなり。然あれば則ち一句一偈の法をも布施すべし。
 此生佗生の善種となる。一錢一草の財をも布施すべし。
 此生佗世の善根を兆す。法も財なるべし。財も法なるべ
 し。但彼が報謝を貪らず。自からが力を願つなり。舟を
 置き橋を渡すも。布施の檀度なり。治生産業固より布施に
 非ざる事無し。愛語といふは。衆生を見るに。先づ慈

第三十二節

愛の心を發し。顧愛の言語を施すなり。慈念衆生。猶如
 赤子の懷ひを貯へて言語するは愛語なり。徳あるは讚む
 べし。徳なきは憐むべし。怨敵を降伏し。君子を和睦な
 らしむること。愛語を根本とするなり。面ひて愛語を聞
 くは。面を喜ばしめ心を樂しくす。面はずして愛語を聞
 くは。肝に銘じ魂に銘ず。愛語能く廻天の力あることを
 學すべきなり。利行といふは。貴賤の衆生に於きて。利
 益の善巧を廻らすなり。窮龜を見。病雀を見しとき。彼が
 報謝を求めず。唯單に利行に催さるるなり。愚人謂はく

は。利^リ他^タを先^{さき}とせば。自^{みづか}からが利^リ省^{はぶ}れぬべしと。爾^{しか}には
 非^{あら}ざるなり。利^リ行^{ぎやう}は一^{いつ}法^{ぽう}なり。普^{あまね}く自^じ他^タを利^リするなり。
 同^{どう}事^じといふは不^ふ違^ちなり。自^じにも不^ふ違^ちなり。他^タにも不^ふ違^ちな
第三十四節り。譬^{たと}へば人^{にん}間^{げん}の如^に來^らは人^{にん}間^{げん}に同^{どう}ぜるが如^{ごと}し。他^タをして
 自^じに同^{どう}ぜしめて。後^{のち}に自^じをして他^タに同^{どう}ぜしむる道^{だう}理^りある
 べし。自^じ他^タは時^{とき}に隨^{したが}ふて無^む窮^{きやう}なり。海^{うみ}の水^{みづ}を辭^じせざるは
 同^{どう}事^じなり。是^{このゆゑ}故^{ゆゑ}に能^よく水^{みづ}聚^{あつ}りて海^{うみ}となるなり。大^{おほ}凡^{よそ}菩^ぼ提^{だい}
 心^{しん}の行^{ぎやう}願^{ぐわん}には。是^{かく}の如^{ごと}く道^{だう}理^り。静^{しづ}かに思^し惟^{ゆゑ}すべし。卒^{そつ}
 爾^じにすること勿^なれ。濟^{さい}度^ど攝^{せつ}受^{じゆ}に一切^{いつせ}衆^{しゆ}生^{じやう}皆^{みな}化^けを被^かぶらん

功^く徳^{とく}を禮^{らい}拜^{はい}恭^{きやう}敬^{きやう}すべし。

第^{だい}五^ご章^{しやう} 行^{ぎやう}持^ぢ報^{ほう}恩^{おん}

此^{このほつ}發^{はつ}菩^ぼ提^{だい}心^{しん}。多^{おほ}くは南^{なん}閻^{えん}浮^ぶの身^{にん}に發^{はつ}心^{しん}すべきなり。今^{いま}
第二十六節是^{かく}の如^{ごと}く因^{いん}縁^{えん}あり。願^{ぐわん}生^{じやう}此^し娑^{しゃ}婆^ぱ國^{こく}土^どし其^{きた}れり。見^{けん}
 釋^{しやく}迦^か牟^む尼^に佛^{ぶつ}を喜^よばざらんや。静^{しづ}かに憶^{おぼ}ふべし。正^{しやう}法^{ぽう}世^せに
第二十七節流^る布^ふせざらん時^{とき}は。身^{しん}命^{みやう}を正^{しやう}法^{ぽう}の爲^{ため}に抛^{ほう}捨^{しゃ}せんことを願^{ねが}
 ふとも値^あふべからず。正^{しやう}法^{ぽう}に逢^あふ今^{こん}日^{にち}の吾^{われ}等^らを願^{ねが}ふべし。
 見^みずや佛^{ほとけ}の言^{のたま}はく。無^む上^{じやう}菩^ぼ提^{だい}を演^{えん}説^{せつ}する師^しに値^あはんには。
 種^{しゆ}姓^{じやう}を觀^{くわん}すること莫^なれ。容^{よう}顔^{がん}を見^みること莫^なれ。非^ひを嫌^{きら}ふ

こと莫れ。行ひを考ふること莫れ。但般若を尊重するが故に。日日三時に禮拜し恭敬して。更に患惱の心を生ぜしむること莫れと。今の見佛聞法は。佛祖面目の行持より來れる恩慈なり。佛祖若し單傳せずば。奈何にしてか今日に至らん。一句の恩尚ほ報謝すべし。一法の恩尚ほ報謝すべし。況や正法眼藏無上大法の大恩。これを報謝せざらんや。病雀尚ほ恩を忘れず。三府の環能く報謝あり。窮龜尚ほ恩を忘れず。餘不の印能く報謝あり。畜類尚ほ恩を報ず。人類争か恩を知らざらん。其報謝は。餘外の

法は中るべからず。唯當に日日の行持。其報謝の正道なるべし。謂ゆるの道理は。日日の生命を等閑にせず。私に費さざらんと行持するなり。光陰は矢よりも迅かなり。身命は露よりも脆し。何れの善巧方便ありてか。過ぎに一日を復び還し得たる。徒らに百歳生けらんは。恨むべき日月なり。悲むべき形骸なり。設ひ百歳の日月は。聲色の奴婢と馳走すとも。其中一日の行持を行取せば。一生の百歳を行取するのみに非ず。百歳の佗生をも度取すべきなり。此一日の身命は。尊ぶべき身命なり。貴ぶ

べき形骸なり。此行持あらん身心自からも愛すべし。自
 からも敬ふべし。我等が行持に依りて。諸佛の行持現成
 し。諸佛の大道通達するなり。然あれば則ち一日の行持
 是れ諸佛の種子なり。諸佛の行持なり。謂ゆる諸佛とは。
 釋迦牟尼佛なり。釋迦牟尼佛是れ即心是佛なり。過去現
 在未來の諸佛。共に佛と成る時は。必ず釋迦牟尼佛と成る
 なり。是れ即心是佛なり。即心是佛といふは誰といふぞ
 と。審細に參究すべし。正に佛恩を報ずるにてあらん。

修證義 (畢)

回向類

◎日分

○朝課佛殿諷經

觀音經 大悲呪
消災呪 三返

上來諷誦大乘妙典觀音普門品。大悲心陀
羅尼。消災妙吉祥陀羅尼。所集功德。同向眞
如實際。莊嚴無上佛果菩提。祝獻護法諸天。
護法聖者。日本國內大小神祇。當山土地。護
伽藍神。招寶七郎大權修利菩薩。合堂眞宰。

◎同向

◎同向

所冀皇圖鞏固。國土昇平。大小檀那。福壽長久。十方施主。災障消除。山門康寧。海衆安樂。法界含識。同圓三種智。

◎同應供諷經

般若心經

仰冀照鑑。俯垂感應。上來諷誦般若心經。所集功德。同向十方常住三寶。果海無量賢聖。十六大阿羅漢。一切應供部類眷屬。所冀三明六通。回末法於正法。五力八解。導群生。

於無生山門之二輪常轉。國土之三災永消。

◎同祖堂諷經

參同契寶鏡三昧

仰冀真慈。俯垂照鑑。上來諷誦參同契寶鏡三昧。所集殊勳。奉為三國傳燈歷代祖師。上酬慈蔭。

◎同開山堂諷經

大悲呪

仰冀真慈。俯垂照鑑。上來諷誦大悲心陀羅尼。所集殊勳。奉為開山某大和尚二世某

◎同向

○同向

四

大和尚已下歷代各大和尚。上酬シテ慈蔭ニ。因資ニ薦某大和尚某大和尚。前住牌又ハ其寺ニ功勞増セン崇コト品ヲ位ニ。

○同祠堂諷經

壽量品偈

仰冀キ三寶クハ俯垂ツレ玉ヘ照鑑ニ。上來諷誦大乘妙典。如來壽量品偈。所集功德。回向某和尚某首座。某上座。當山亡僧伽等各各品位。本朝人皇歷代皇帝各各神儀。當寺開基。亡己下檀那先結緣諸靈。

日牌月牌諸靈等。

當寺結緣祠堂檀那。合山清衆。六親眷屬。七世父母。法界含識。同圓菩提。

○竈公諷經

大悲呪

上來諷誦大悲心陀羅尼功德。回向當山竈公眞宰。所祈護法安人。

○日中諷經

金剛經 尊勝陀羅尼

上來諷誦金剛般若波羅蜜經。佛頂尊勝陀羅尼。所集功德。回向眞如實際。十方三寶。三

○回向

五

界萬靈。一切護法。日域神祇。所冀山門鎮靜。
辨道安穩。超證佛果。利濟衆生。諸緣吉祥。

○晚課諷經

大悲咒
甘露門

願以此功德。普及於一切。我等與衆生。皆共
成佛道。

○二時行鉢念誦

佛生迦毘羅。成道摩揭陀。說法波羅奈。入滅
拘絺羅。如來應量器。我今得敷展。願共一切

衆等三輪空寂。

仰惟三寶。咸賜印知。仰憑尊衆念。

清淨法身毘盧舍那佛。圓滿報身盧遮那佛。
千百億化身釋迦牟尼佛。當來下生彌勒尊佛。

十方三世一切諸佛。大乘妙法蓮華經。

大聖文殊師利菩薩。大乘普賢菩薩。

大悲觀世音菩薩。諸尊菩薩摩訶薩。

摩訶般若波羅蜜。

◎回向

(粥時)

粥有十利。饒益行人。果報無邊。究竟常樂。

(齋時)

三德六味。施佛及僧。法界有情。普同供養。

一計功多少。量彼來處。二付己德行。全缺一應供。

三防心離過。貪等為宗。四正事良藥。為療形枯。

五為成道。故今受此食。

汝等鬼神衆。我今施汝供。此食遍十方。一切

鬼神共。

上分三寶。中分四恩。下及六道。皆同供養。

一口為斷一切惡。二口為修一切善。三口為

度諸衆生。皆共成佛道。

我此洗鉢水。如天甘露味。施與鬼神衆。悉令

得飽滿。唵摩休羅細娑婆訶。

處世界如虛空。如蓮華不着水。心清淨超於

彼。稽首禮無上尊。

◎回向

○一時行鉢疏

稽首薄伽梵。圓滿修多羅。大乘菩薩僧。
 功德難思議。今晨修設有疏。恭對雲堂。代伸宣表。伏惟慈
 證。大日本國某府縣區郡市町村某甲。今值
 某靈忌辰。敬就當山。修設淨齋。奉獻十方常住
 之三寶。供養一會現前之僧伽。所集鴻福。回
 向スル某某氏名福壽延長信根不退。者也。謹疏伏請
 某々靈位莊嚴報地圓滿菩提。

三寶悉知。賢聖炳鑑。上來文疏。已具披宣。聖
 眼無私。諒垂照鑑。仰憑尊衆。念次十佛

(同喝食語類)

淨粥シヨウシユウ 時粥トキシヨウ 香飯キヨウバン 香汁キヨウジツ 時齋トキサイ 香菜キヨウサイ 再進サイシン 香湯コウトウ
 淨水シヨウスイ 折水セツスイ

◎月分

○祝シユク 聖シン 消災呪

巍巍タタ金相タタ。堂堂タタ覺王タタ。三界獨尊。萬靈皆仰。
山門每遇ニ斯辰ニ。謹集ニ合山清衆ニ。恭趨ニ大佛寶殿ニ。諷誦ニ大悲心陀羅尼ニ。消災妙吉祥陀羅尼ニ。所集ニ鴻因ニ。端為ニ祝延ニ。今上皇帝聖壽萬安。
(金剛無量壽佛。仁王菩薩摩訶薩。摩訶般若)

波羅蜜ホロミ 同衆唱

○朝課罷鎮守諷經 大悲呪

神功浩浩トク。聖德昭昭タリ。凡有ニ禱祈ニ。必蒙ニ感應ニ。

仰冀キ聖聰ニ。俯垂ニ照鑑ニ。上來諷誦ニ大悲心陀羅尼ニ。

尼ニ所集ニ鴻福ニ。回ニ向ニ。若シ特ニ神祠ニ。詣ニ諷經ニ。山清衆ニ。詣靈祠ニ。諷誦ニ經ニ。當山鎮守某神。當山土

地護伽藍神。一切護法諸天善神。增加ニ威光ニ。

無量德海ニ所祈ニ。皇風永扇ニ。佛日增輝ニ。山門

鎮靜。修道無難。國家安康。萬民豐富。

○本尊上供諷經 般若心經

上來諷誦般若心經功德。回向真如實際莊嚴無上佛果菩提。四恩總報。三有齊資。法界有情。同圓三種智。

○三念誦

皇風永扇。帝道遐昌。佛日增輝。法輪常轉。伽藍土地。護法安人。十方檀那。增福增慧。為如

上緣念十佛名大眾同唱 粥飯ノ時ニ同シ

○四日時達磨獻湯諷經大悲呪 五日獻供 諷經此レニ同シ

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。山門每遇斯辰。虔備香花燈燭蜜湯當日ハ湯菜茶珍 謹集比丘衆。諷誦大悲心陀羅尼。所集殊勳。奉為圓覺大師菩提達磨大和尚。上酬慈蔭。

○五日朝課罷韋駄天諷經般若心經 一返 消災呪 三返

上來諷誦般若心經。消災妙吉祥陀羅尼所集功德。祝獻護法韋馱尊天。厨司監齋使者。主湯火神明所冀。山門鎮靜。中外咸安。火盜雙除。檀信歸崇。諸緣吉利。

◎八念誦

十佛名大衆同唱
三念誦二同シ

白大衆如來大師。入般涅槃。至今明治某已得何歲。是日已過。命亦隨滅。如少水魚。斯有何樂。衆等當勤精進。如救頭然。但念無常。慎

勿放逸。伽藍土地。護法安人。十方檀那。增福增慧。爲如上緣念。佛十名

◎望晦略布薩

我昔所造諸惡業。皆由無始貪瞋癡。從身口意之所生。一切我今皆懺悔。
南無過去七佛。
南無釋迦牟尼佛。
南無文殊菩薩。
南無普賢菩薩。
南無觀世音菩薩。
南無彌勒菩薩。

南無歷代祖師菩薩。
 衆生無邊誓願度。煩惱無盡誓願斷。法門無
 量誓願學。佛道無上誓願成。
 處世界如虛空。如蓮華不著水。心清淨
 超於彼。稽首禮無上尊。
 自歸依佛。當願衆生。體解大道。發無上心。
 自歸依法。當願衆生。深入經藏。智慧如海。
 自歸依僧。當願衆生。統理大衆。一切無礙。

上來說戒功德同向。散霑法界。和南聖衆。（導師

之ヲ唱フ了テ衆同
音十方三世云云）

○廿八日時兩祖獻湯諷經

普門品 廿九日獻供
諷經及九月逮夜同之

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現
 去來。仰冀眞慈。俯垂照鑑。山門每遇
 斯辰。虔備香華燈燭蜜湯。（當日湯菜茶
珍饈以下做之）謹集
 比丘衆。誦大乘妙典。觀音普門品。所集殊
 勳。奉爲太祖弘德圓明國師常濟大師。上酬慈蔭。伏

◎同向

願ヲ不レ捨テ悲シ心ヲ愍ミ三界六凡之衆再ニ來ル末世現シ
一華五葉之春覆ニ蔭シテ後昆祖風永扇

○廿九日同獻粥諷經大悲呪 九月正忌同レ之

淨法界身。本ト無シ出沒。大悲願力。示ニ現ス
去來。仰キ冀クハ真慈。俯ノ垂レ照ハ鑑ニ。上來虔備

香花燈燭茶湯淨粥諷誦大悲心陀羅尼所レ
集殊勳奉爲高祖佛性傳東國師承濟大師上酬慈

蔭ニ

○各寺開山諷經經呪隨意

淨法界身。本ト無シ出沒。大悲願力。示ニ現ス

去來。仰キ冀クハ真慈。俯ノ垂レ照ハ鑑ニ。山門今每月

今來日伏值開山某大和尚示寂之辰虔備香

花燈燭以伸供養謹集現前清衆同音諷誦

呪經所集殊勳上酬慈蔭伏願不捨悲心愍三

界六凡之衆再來末世現一華五葉之春覆ニ

蔭後昆門風永扇ニ

◎同向

○尊宿世代諷經 經呪隨意

寶明空海。湛死生漩瀆之波。大寂定門。
 融今古去來之相。仰冀真慈。俯垂照鑑。
 山門今每月今日伏值某某寺某某大和尚示寂月忌之辰。
 虔備香花燈燭。以伸供養。謹集現前清衆。同
 音諷誦所集殊勳增崇品位伏願曇華再
 現重開覺苑之春慧日長明。永照昏衢之夜。

○開山略回向

仰冀真慈。俯垂照鑑。上來諷誦所集
 殊勳。奉為開山某大和尚。上酬慈蔭。

○世代略回向

仰冀真慈。俯垂照鑑。上來諷誦所集
 殊勳。回向某世某大和尚。增崇品位。

○亡僧諷經 經呪隨意

一靈心性。本無去來。幻化色身。有
 有滅。仰冀三寶。伏垂照鑑。山門今每月

◎回向

來今日 伏テ值フ某正月 忌ノ之辰 虔ニ備ヘ香燭 茶湯珍膳 諷ニ誦ス
所レ集ル功徳資ニ助シ覺靈莊ニ嚴ス報地 伏テ願ク眞ニ
空ラ自ラ悟テ早ク脫シ人間生死之根塵ニ心智圓明速ニ
入ニ如ク來寶明之空海

○檀那諷經

經呪隨時

淨リ極ク光通達シ 寂照含ニ虛空 却來觀ニ世間
猶ホ如シ夢中事ノ 仰キ冀ク三寶 俯シ垂ニ照鑑
山門今月今來日伏值フ開基法號月忌之辰 虔ニ備ヘ香燭

燭茶湯 珍膳 諷ニ誦ス 經呪 所レ集ル功徳資ニ助シ覺靈莊ニ嚴ス報ス
地ニ伏テ願ク處ニ生死流ニ驪珠獨輝於滄海ニ踞ニ涅槃
岸ニ桂輪孤朗於碧天ニ普導世間同登覺路

◎年分

○三元轉大般若回向

總持猶ハホ妙藥ニ。能療ケ衆惑病ニ。亦タ如ニ天甘露ニ。服者常安樂ニ。仰冀キ三寶ニ。俯垂レ照鑑ニ。

上來轉ニ讀シ大般若波羅蜜多經六百軸金文ニ。諷ニ誦ス消災妙吉祥陀羅尼ニ所集ル功德ニ回下向ス般若會上諸佛菩薩及ヒ十六善神一切護法諸

天。日本國內大小神祇。當山土地。合堂眞宰。增加ヘル威光ニ無量德海上ニ所レ祈ル。今上皇帝聖壽萬安。文武百僚。鈞筭長久。十方檀那。福慧增長。山門繁榮。火盜潛消。海衆安穩。諸緣ナラ吉祥ニ。

○涅槃會

出班燒香。宣疏。南無本師釋迦牟尼佛三返。次ニ大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼ヲ舉ス。行道畢テ摩訶梵三返。降誕成道何レモ同回向ナリ。

上來諷經功德ニ供ニ養シ。今日入般涅槃ニ。誕生會ハ成道會ハ

(今日降誕)(今日成道)本師釋迦牟尼如來大和尚ニ以テ酬ニ

法乳之慈恩。

◎同回向

(出班燒香ヲ修セス。疏ナ)

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。山門今日。伏值本師釋迦牟尼如來大和尚大般涅槃之辰。(誕生ハ降誕之辰。成道ハ成道之辰)虔備香華燈燭湯菓茶珍饈。以伸供養。謹集現前比丘衆同音誦。大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼。所集殊勳。

上酬慈蔭。伏願寂照圓明。修證四種波羅蜜之妙德。常住堅固。獲得六義。薄伽梵之最勝。

◎兩祖忌迎真諷經

送真回向亦々是ナリ。達磨祖師忌之レニナ

上來諷經功德。奉為高祖弘德圓明國師承濟大師。上酬慈蔭。

◎達磨祖師忌獻粥諷經

大悲咒

上來諷經功德。奉為神丹初祖圓覺大師菩

◎回向

提達磨大和尚。上酬慈蔭。

○出山如來獻粥諷經 大悲呪

上來諷經功德。奉為本師釋迦牟尼如來大和尚。上酬慈蔭。

○轉大般若

淨道場了了。金剛經。觀音經。大悲呪。又ハ消災呪。七返。住持ノ指揮ニ依ル。

散華莊嚴徧十方。散衆寶華以為帳。散衆寶華徧十方。供養一切諸如來。

(轉經中唱文)

諸法皆是因緣生。因緣生故無自性。無自性故無去來。無去來故無所得。無所得故畢竟空。畢竟空故。是名般若波羅蜜。南無一切三寶。無量廣大。發阿耨多羅三藐三菩提。納慕。簿伽筏帝鉢刺壤波羅引多曳。怛姪他。室囉曳。室囉曳。室囉曳。細娑婆訶。

內空。外空。內外空。空空。大空。勝義空。有為空。

◎回向

無爲空。畢竟空。無際空。散空。無變異空。本性
 空。自相空。共相空。一切法空。不可得空。無性
 空。自性空。無性自性空。大般若波羅蜜多
 經卷第何卷。降伏一切大魔。最勝成就。一帙十卷轉シ
 了レハ。大磬ヲ押ユルヲ
開テハ次ノ陀羅尼ヲ唱フ。
 羯諦羯諦。婆羅羯諦。婆羅僧羯諦。菩提娑婆
 訶。

(同疏)

總持ハホ猶ニホ妙藥一〇。能療グ衆ス惑病一〇。亦ダ如ニシ天レ甘露一〇。
 服者スルハ常安樂〇ナリ。仰冀キ三寶〇。俯垂ノレ玉ヘ照鑑一〇。

大日本某縣府某國市町某山某寺住持比丘

某甲等。特祈誓三寶境界。專修習三業。白善一〇。

茲供養六和敬之淨侶。奉轉讀六百軸之金

文。覺薩埵波倫極信心。仰廣大般若功德力一〇。

所集鴻福。同向般若十六會之一切三寶。

極安樂世界等之十方三寶。本尊界會觀

◎回向

云

自在尊。二十八部衆。並信心施主某甲等。本命元辰。一切星宿。十六善神等。護法諸天。三界萬靈。日本國內大小神祇。合堂真宰。各增加威光。利濟衆生。令入道者。右伏以。總持明咒。能除一切災難。般若智火。速燒無量煩惱。久持金剛不壞之壽命。增長福慧。遠離八萬四千之塵勞。消滅業苦。身心快樂。諸緣吉慶。

○施餓鬼回向

大悲呪 甘露門 回向偈即チ以 此修行ヨリ 兩斑燒香 左右交換ナシ

上來諷經功德。回向施主無盡法界。一切群

類。財法飢饉惡趣鬼神。邪黨天魔。僻徒含生。飽滿法味。咸發正智。輕重諸業。皆得解脫。隱顯利益。同圓種智。

○大施餓鬼回向

大悲呪 甘露門 回向偈 普回向 宣疏了テ 楞嚴呪 行道 摩訶梵

上來諷誦大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼功德。回向無盡法界。一切含類。財法飢饉無量鬼

◎回向

三五

◎回向

神。惡趣。群生。邪魔。僻徒。飽滿。法味。止。智開發。
廣。度。衆生。同。圓。種。智。

◎檀越本尊上供回向 般若心經

上來。諷誦。般若。心經。功德。回向。大恩。教主。本
師。釋迦。牟尼。佛。高祖。佛性。傳。東國。師承。陽大
師。太祖。弘德。圓明。國師。常濟。大師。盡。十。方法
界。一切。三寶。伏願。四恩。總報。三有。齊資。法界。
有情。同。圓。種。智。更。冀。家道。興隆。災障。消除。諸

緣吉祥

◎同年忌正當回向 經呪適宜

淨極。光通。達。寂照。含。虛空。却來。觀。世間。
猶如。夢中。事。仰。冀。三寶。俯。垂。照。鑑。
山門。每。月。來。日。伏。值。忌。之。辰。虔。備。香。華。
燈燭。湯。菓。茶。珍。饜。以。伸。供。養。恭。請。現。前。清。衆。
同。音。誦。經。咒。所。集。功。德。資。助。覺。靈。莊。嚴。報。
地。伏。願。處。生。死。之。流。驪。珠。獨。耀。於。滄。海。踞。涅。

◎回向

槃之岸桂輪孤朗於碧天普導世間同登覺路

◎同先亡累代諷經回向

經呪適宜

仰冀三寶俯垂照鑑上來諷誦所

集功德回向先亡累代精靈六親

眷屬七世父母有緣無緣三界萬靈法界含

識等所冀曠劫無明當下消滅真空妙智即

得現前頓了無生速證佛果

◎開山墳墓諷經

大悲呪

仰冀真慈俯垂照鑑上來諷誦大悲心

陀羅尼所集殊勳奉為開山某大和尚上酬

慈蔭

◎世代墳墓諷經

大悲呪

上來諷誦大悲心陀羅尼所集功德回向世

某大和尚各各大和尚增崇品位

◎亡僧墳墓諷經

尊勝陀羅尼

◎回向

四

上來諷誦佛頂尊勝陀羅尼所集功德回向
當山古今亡僧伽等各各品位莊嚴報地

○檀越墳墓諷經

大悲呪

上來諷誦大悲心陀羅尼所集功德回向某
信士女所冀莊嚴報地

宣疏類

○涅槃會疏

淨法界身。本無_ニ出沒_一。大悲願力。示_ニ現_ス

去來_一。仰願_ニ照臨_一。俯請_ニ真慈_一。大日本某

縣府某國某町_{市郡}村某山某院_寺住持遺教比丘某。

今月十五日。恭值_ニ本師釋迦牟尼如來大

和尚。入般涅槃之辰_一。虔備_ニ香華燈燭湯菓茶

珍饈_一。以伸_ニ最後慇懃供養_一。仍集_ニ現前比丘衆_一

誦_ニ大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼_一。所集_ニ殊勳_一

○宣疏

上酬慈蔭者。右伏以常在靈山微月。幽光
遠輝。泥洹雙樹。殘華餘薰。尚郁滉槃。常樂之
接化。迄于今時。無為實相之德用。被于來際。
是以上乘一心之法。供養面面。捧五十二類
供具。萬行首楞之秘密咒。各各作異口同音
之佛事。伏願法界徧驚。無量聲光之告群類
悉預如來常在之化。謹疏。

本師如來。維時某曆年二月十五日。某山某
哀感納受。謹疏。

院寺住持遺教比丘某。謹疏。

○誕生會疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現

去來。仰願照臨。俯請真慈。大日本某

縣府某國某市郡某山某院寺住持遺教比丘某。

今月初八日。恭值本師釋迦牟尼如來大

和尚降誕之辰。虔備香華燈燭湯菓茶珍饈。

以伸供養。仍集現前比丘衆。同奉灌浴。諷誦

○宣疏

大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼所集殊勳。上酬
 慈蔭者。右伏以。曇華瑞現。徧界香氣。曼引
 赫日質麗。滿天光輝。普照三祇劫滿之最後
 身。四八莊嚴之大妙相。是凡是聖。悉皆歸仰
 天上天下。唯我獨尊。三百餘會。法雨潤遠。浴
 二千餘年。德風響久。扇仰願。毫光益來。際而
 福業利塵沙。伏請心華開滿地。而莊嚴敷法
 界。謹疏。

本師如來。維時何曆某年。四月初八日。某山
 某院某住持遺教比丘某。謹疏。

○成道會疏

大圓滿覺。垂跡西乾。心包大虛。量周
 沙界。仰願照臨。俯請眞慈。大日本某

府某國某町村某山某院寺住持遺教比丘某。

今月初八日。恭值本師釋迦牟尼如來大
 和尚成道之辰。虔備香華燈燭湯菓茶珍饈。

以伸^テ供養^ニ仍^レ集^メ現前^ノ比丘衆^ヲ諷誦^ス大佛頂萬
行首楞嚴陀羅尼^ヲ所集殊勳^ヲ上酬^シ慈蔭^ニ者^{ナリ}

右伏以融^ニ瓶盤^ニ釵釧^ニ而爲^ス一^ニ金^ニ非^レ智^ハ火^ニ鮮^ニ克^{スル}

校^テ琴瑟^ヲ筵^ニ篠^ニ以^テ諧^ニ六^ニ律^ニ舍^テ妙^ヲ指^テ奚^ソ爲^ス蓋^シ衆生

有^ル具^ス如來^ノ智慧德相^ニ若^シ大覺無^レ示^ニ衆生迷悟^ニ

方便^上演^ス若^シ狂性難^ク歇^ス力士額珠永^ク忘^ス今聞^ニ大

地有情之成道^ニ新明^ニ本有佛性之正^ニ因^ニ慧照

永輝^ニ一燈傳^ニ百千燈^ニ道風久^ク扇^ス此界泊^ニ無^レ邊

界^ニ謹^テ疏^ス

本師如來^ノ哀愍納受^ス維時某曆某年十二月初八日^ニ某

山某^ノ院^ニ住持遺教比丘某^ノ謹^テ疏^ス

○楞嚴會啓建疏

妙湛總持不動尊^ヲ首楞嚴王世^ニ希有^ニ銷^ニ我^ノ億

劫顛倒想^ヲ不^レ歷^ニ僧祇^ニ獲^ニ法身^ニ佛功德海^ニ難^シ

盡^シ讚揚^ス大日本某^ノ縣^ニ某^ノ國^ニ市^ニ郡^ニ某^ノ山^ニ某

院^ニ住持比丘某^ノ本月十五日^ニ伏^テ值^ニ覺皇結

○宣疏

制之辰。是釋子護生之日。預於此日。啓建楞嚴勝會。海衆同音。諷誦祕密神咒。所冀三寶諸天。齊衛護。九旬修證。無難事。右伏以。楞嚴勝會。本師釋迦牟尼如來。涌寶光於無見頂相。覆舌相於大千沙界。照十方佛土。集一切諸佛。令無數恒沙之菩薩。說二十五種之圓通。獨以觀音菩薩之得處。殊為聞聲悟道之表準。遂演說祕密神咒。正單示開悟直

道。楞嚴勝會肇於此會。長期誦咒。專於此咒。約日限於百日。結人數於什員。佛祖有九旬安居之舊規。叢林建三月行道之勝會。謹疏。

三寶證明。維時曆某年五月十三日。某山某寺。住持比丘某。謹疏。

○楞嚴會滿散疏

妙湛總持不動尊。首楞嚴王世希有。銷我億

○宣疏

劫顛倒想不歷僧祇獲法身佛功德海

難盡讚揚 大日本某縣府某國某郡市町某

山某院寺住持比丘某

本月十五日伏值覺皇解制之辰是衆僧自恣之日預於此日滿散楞嚴勝會海衆同音諷誦祕密神咒所集善利回向十方三寶祝獻護法諸天報答四恩三有利樂法界有情者右伏以 涌寶光於無見頂相有化

佛之宣揚建勝幢於室羅筏城銷塵登之幻妄昨屬長期之安居啓此勝會今當覺皇之解制各圓法歲知乘此神咒力而三惑頓消忽開明此咒心而十地速登情與無情同音說法能與所境互換主伴常恆爲佛事不退施法益外重叡筭無窮之山德而加風雨調適之惠祐於天下內轉法輪不退之性海而普日月照耀之智光於群生 謹疏

諸三寶證明。維時某曆某年八月十三日。某山某院寺住持比丘某。謹疏。

○于孟蘭盆會施餓鬼疏

大日本某縣府某國某町村某山某院寺住持比丘某。謹疏。

今月十五日。伏值法歲周圓。衆僧自恣之辰。謹率現前清衆。詣覺皇寶前。以辨微供。普施河沙之功德。加法施而救諸來群類者。

竊以業山幽邃。日月光不能照。苦海嶮浪。賢聖力不能渡。智梯如無。便慈航似失。術梵釋之不能。奈何諸佛之雖徒。拱手釋尊。廻方便而借衆僧威神之力。目連助慈母而救飢饉極重之苦。可尊安居同修之威神力。已超三世覺皇之佛智力。不疑和合衆僧之功德聚。頓消業定受苦之罪惡。聚孟蘭盆供自此始。大施餓鬼勤修久。是以兼日各各漸修之經。

咒力。漸驚此界他方之業苦海。今夜如如圓
 頓之心。王咒頓崩。妄想實受之浮塵。山若然
 者。現前微施。供沙界之飢饉。類群聚含類。受
 無量無邊際之法。供養頓飽足。無為實相之
 法味。速遊戲。逍遙自在之安樂。存亡齊導。怨
 親普利。謹疏。

維時某曆某年八月十五日。某山某院寺住
 持比丘某。謹疏。

○高祖忌疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現
 去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。某縣某

國某市郡某山某院寺住持法孫比丘某。

今月今日。恭遇高祖佛性傳東國師承陽
 大師。大般涅槃之辰。虔具香華燈燭山蔬野
 茗之微供。特集現前比丘衆。恭就真前。誦
 大乘妙典。如來壽量品。所集殊勳。上酬慈恩。

罔極者。伏惟洞水逆流。巨海波濤。為雷黃
 龍電激。普天雲雨。為潤曹源。之一滴點着。而
 派流繁興。二株之嫩桂。覆蔭而枝條鬱茂。五
 家家風無不通。七宗宗要悉皆達。遍參和漢
 兩朝名匠。博覽內外顯密經義。百世之英傑。
 千古之模範。吾扶桑藝祖者乎。照第一天。而
 有明於日月。眼目觸破大千。而轉妙於輪寶。
 法輪仰冀。心眼相照。正偏宛轉。君臣道合。而

旁參奉重。謹疏。

高祖炳鑑。維時某曆某年九月廿九日。某山
 慈悲容納。維時某曆某年九月廿九日。某山
 某院寺住持法孫比丘某。謹疏。

○太祖忌疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現
 去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。某縣府某
 國某町村某山某院寺住持法孫比丘某。
 今月今日。恭遇太祖弘德圓明國師常濟

大師。大般涅槃之辰。謹具香華燈燭山蔬野
 茗之微供。特集現前比丘衆。恭就真前。諷誦
 大乘妙典。如來壽量品。所集殊勳。上酬慈恩
 之岡極者。伏惟見色明心。五百生前證果
 聖。聞聲悟道。三千里外辨絃人。是莽師剃度。
 卽介公嫡傳。原夢於榎木枝頭。破艸鞵而垂
 洞谷開山。統一表信於松壽林中。舊衣鉢而董
 護國補助。功立二利。行願振一實宗風。元享

賜紫。補曹洞瑞世之道場。明治。敕黃。謚常濟
 大師之嘉號。伏冀白石生兒處。直歆誠芹之
 芳馨。露柱懷胎時。更通心香之氣息。謹疏。
 太祖炳繼。維時某曆某年九月廿九日。某山
 慈悲容納。某院寺住持法孫比丘某。謹疏。

○達磨忌疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現
 去來。仰願照臨。俯請真慈。大日本

某縣府某國某町村某山某院寺住持比丘某。今月初五日。恭遇神丹初祖圓覺大師菩提達磨大和尚示寂之辰。虔備香華燈燭湯菓茶珍饍。以伸供養。仍集現前比丘眾。誦大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼。所集殊勳。以酬法乳慈恩者。右伏以。慧日西沈。鷲嶺一千年。法雲東簇。神州越十萬里。於是白馬始先。漢朝之瑞。赤鳥自紹。吳會之祥。翻譯虬文。

流通經教。章疏之科。節星繁。名相之教。網雲敷。刁刀相似。魚魯難辨。爰我藝祖。少林達磨大師。慈心包於遠裔。師敕蒙於遐陬。罔辭巨海之驚濤。一翔遊於梁土。不契老蕭之丹臆。潛之魏邦。泛一葦於重江。終九年於少室。單傳心印。直示宗綱。席上拈華。飲光之正脉。有寄庭中立雪。慧可之得髓。無疑。法雷既震於九州。道風遂扇於四海。然屆隻履西歸之日。敢忘

攝齋北面之勤。今仰深重之尊德。遙伸如在之誠禮。凱不吝於來儀。庶俯歆於微供。伏想斗筭陋器。螻蟻餘生。雖彎石鞏之弓。遂莫的鹿。徒下立沙之鈎。會叵得魚。恭挑傳燈之遠炎。以供曩祖之真前。伏請大願有力。真慈無礙。曲垂提耳。俾獲安心。有明知見。而猛省回光。不假修證。而頓悟成佛。然後河為帶。山為冠。祝北闕之寶祚無疆。雲如鶴。雨如膏。資南

畝之黎元有歲。謹疏。

祖師炳鑑。維時某曆某年十月初五日。某山某院寺住持比丘某。謹疏。

○兩祖忌疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。某府某國某

市郡某山某院寺住持法孫比丘某。今月今日恭遇高祖佛性傳東國師常濟大師大般涅槃之辰。

謹具香華燈燭山蔬野茗之微供特集現前
 法孫恭就真前諷誦所集殊勳上酬慈恩
 之罔極者右伏以跨船南海佛法東漸
 因緣留錫北山祖師西來出處將軍布金名
 勝擺撥如埃塵皇帝賜紫官榮棄擲似澆睡
 非於身心行儉讓要為兒孫專惜福禧撥轉
 靈機通身光明了了繁興大用徧界瑞氣綿
 綿君臣道合國豐珊瑚撐月父子親密屋富

峯巒帶雲乃是瞬目破顏嫡傳莫匪安心得
 髓正令恩澤恢布一萬四千梵筵真風永扇
 五十六億涼燠今迎大般涅槃之月此展小
 伊蒲塞之筵仰冀蓮日垂青芹意照赤
 疏

兩祖炳鑑維時某曆某年九月廿九日某山
 慈悲容納住持法孫比丘某謹蔬

○各寺開山忌疏

淨法界身。本無出沒。大悲願力。示現
 去來。仰冀真慈。俯垂照鑑。某府某國郡
 村某山某院寺守塔比丘某。今月今日。恭遇
 開山某大和尚示寂之辰。虔備香華燈燭湯
 菓茶微膳。以伸供養。仍集現前清衆。誦
 所集殊勳。上酬慈恩者。伏以法眼圓明。在
 世輝日月。眸德宇活達。觸處震霹靂。舌捏轉
 帝釋鼻孔。建立梵刹。抉出永平。腑臟打成群

機。神人歸崇。檀越子來。彷彿感月。成紋靈犀。
 角依稀。驚雷生華。香象牙已。得門風繁興。正
 是當院鼻祖。遠孫何辨。親奉惟勤。伏冀無底
 鉢中齋供。不受食外容納。謹疏。

維時某曆某年月日 某山某院寺守塔比
 丘某。謹疏。

○可漏法

恭敬 疏上
 黃 紙
 涅槃 如來
 某山某寺住持遺教比丘某謹封

三佛會皆同シ。誕生ハ降誕如來。成道ハ成道如來ト書ス。
 恭敬 疏上
 黃 紙
 祖師 炳鑑
 某山某寺住持法孫比丘某謹封

二祖忌太祖忌皆同シ。各寺開山忌ハ。祖師ヲ開祖ト書ス。
 本師如來圓通致主
 黃 紙
 楞嚴勝會十方三寶
 某山某寺住持比丘某謹封

滿散モ同シ
 悲愍 疏上
 淡墨紙
 二十 五類
 某山某寺住持比丘某謹封

疏并ニ可漏共三寶印ナシ

制中行事類

○制中行事

○二月歲旦人事致語

小參畢テ西堂人事。次ニ知事。次ニ頭首。上首。進テ胡跪。燒香。自香。列ニ歸ル。全班齊ク展拜。ノ勢ヲナス。住持之ヲ免停ス。手ヲ仰テ其意ヲ示ス。

(初展云) 此日改歲令辰。謹伸嘉儆之儀。一〇ヲ展

ノ勢ヲナス。住持之ヲ免停ス。

(再展云) 即日氣雲極寒。恭惟堂頭和尚。尊

候起居萬福。觸禮三拜。住持答一拜。總シテ人事兩展三禮。ノ進退皆之ニ同シ。

○制中行事

◎制中行事

○同知事禮謝堂行喝語

知事入堂。聖僧前
三拜。具ヲ收テ立ッ。
堂行喝シテ云ク。

知事禮謝首座大衆

普同觸禮三拜。知事ノ首座
列ヲ引キ。龕後ヲ廻テ首座

ノ前ニ到リ問訊シ。巡堂
一匝シテ出堂位ニ就ク。

○同住持大衆人事堂行喝語

鐘僧堂前ノ小

ト七下。住持上堂。聖僧前ニ燒香シ。大展
三拜。具ヲ收テ立ッ。堂行喝シテ云ク。

堂頭和尚與首座大衆人事

普同觸禮三拜。畢テ。
住持上問ヨリ下問

巡堂一匝シテ出
堂。方丈ニ歸ル。

○十一月二日入寺式。請首座法

維那一打槌
一下唱云

今夏安居。適奉堂頭和尚慈旨。令請某上座。

充前堂首座。謹白。

○同首座謝知事之勸請詞

諸知事首座
ノ前ニ到テ

觸禮三拜。拜畢レハ。
首座喝シテ云ク。

有レ荷ニ推揚。不勝慚悚。

○同知事賀詞

◎制中行事

○制中行事

荷^フ衆^ヲ當^ル才^ニ。伏^テ惟^レ歡^ハ慶[。]諸知事深ク揖シ
テ本位ニ歸ル。

○同首座兩展三禮致語

新首座聖僧前ニ
大展三拜。具ヲ收

テ知客ニ隨ヒ住
持ノ前ニ到ル。

(初展云) 新戒乍入叢林。諸事生疎。過蒙和
尚差請。下情無任恐懼之至。

(再展云) 即日氣雲(夏極メテ熱シ。
冬)霜冷カナリ。恭惟堂頭
和尚尊候起居萬福。住持答一禮拜。

○同維那再唱

打槌一下

今已請得某上座充前堂首座。訖謹白。打槌

維那位ニ歸ル。堂行手磬一通。住
持首座大眾普同三拜シテ散堂。

○五月十三日請楞嚴頭詞

粥罷。維那首座寮ニ到リ。
香ヲ燒テ請シテ云ク。

今晨啓建楞嚴勝會堂頭和尚有命。令上座
爲楞嚴頭。

○同楞嚴會普回向牌

一枚共ニ初句
ナ内ニメ認ム。

上來現前比丘衆。諷誦楞嚴秘密咒。
回向護法衆龍天。土地伽藍諸聖造。

○制中行事

三途八難俱離苦。四恩三有盡霑恩。
 國界安寧兵革銷。風調雨順民康樂。
 一衆薰修希勝進。十地頓超無難事。
 山門鎮靜絕非虞。檀信歸崇增福慧。
 十方三世一切佛。諸尊菩薩摩訶薩。
 摩訶般若波羅蜜。

○南無楞嚴會上佛菩薩

聖號此ノ如ク舉スヘシ。諸菩薩ト

舉スヘカラス。

○同楞嚴會序引

爾時世尊。從肉髻中。涌百寶光。
 光中涌出。千葉寶蓮。有化如來。
 坐寶華中。頂放十道。百寶光明。
 一一光明。皆徧示現。十恒河沙。
 金剛密跡。擎山持杵。徧虛空界。
 大衆仰觀。畏愛兼抱。求佛哀祐。
 一心聽佛。無見頂相。放光如來。

宣說神咒。

次ニ大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼ヲ舉ス。行道畢テ摩訶梵ヲ舉ス。

○同回向

上來諷經功德。回向真如實際。莊嚴無上佛果。菩提四恩。總報三有。齊資法界。有情同圓。種智十方三世云云。

○夏冬十三日衆寮諷經回向楞嚴行道

妙湛總持不動尊。首楞嚴王世希有。銷我億劫顛倒想。不歷僧祇獲法身。

上來諷誦大佛頂萬行首楞嚴陀羅尼功德。回向真如實際。莊嚴無上佛果。菩提祝獻護法。諸天。三界萬靈。十方至聖。日本國內大小神祇。當山土地護伽藍神。招寶七郎大權修利菩薩。合堂真宰。增加威光。無量德海上所冀。山門繁昌。僧寶增盛。諸檀福壽。快樂圓滿。諸緣成就。同圓種智。

○夏冬十四日庫司特為首座大衆點湯

◎制中行事

請詞

齋罷。庫司行者湯勝。持シテ首座寮ニ到リ。
香ニ薰シテ香臺ノ側ニ置キ。請シテ云ク。

庫司今晚。就ニ雲堂。特ニ爲ニ點湯。伏望。慈悲光降。
願シテ一拜。首座答拜シテ送リ出ツ。

○同知事上首詣方丈燒香展具三拜請云

今晚就ニ雲堂。特ニ爲ニ首座大衆。點湯。伏望。和尚慈悲。特ニ垂ニ降ニ重ニ下ニ情ニ不

○同知事點湯兩展三禮致語

上首班ヲ引テ入堂。龜後展ヲ經テ住持ノ前ニ到リ。立列シテ展拜ノ勢ヲナス。住持之ヲ免停ス。

(初展云) 此日粗湯。特ニ沐ニ慈悲降重。下情不勝。感激之至。
一〇=ト拜免前

(再展云) 即日氣雲漸。
(夏ハ)熱ス。(冬ハ)寒シ。 恭惟堂頭和尚。尊候起居萬福。
觸禮三拜。住持答一拜。

○夏冬十四日結制土地堂念誦

切以。
(夏)驚風扇野。玄帝司方。當法王禁足之辰。

◎制中行事

是釋子護生之日。躬哀大衆。肅詣靈祠。誦持萬德。洪名。同向合堂。眞宰所祈。加護得遂。安

○同回向

上來念誦功德。並用回向護持正法土地龍神。伏願神光協贊。發揮有利之勳。梵苑興隆。永錫無私之慶。十方三世云云。紙錢紙馬等ハ廢セラレタリ。用ユヘカラス。

○夏冬十五日朝課罷結制人事行禮兩展三禮致

語西堂ハ知事ノ頭首人事皆同シ。朝課畢ヲ普同三拜。住持具ナ收テ南面ス。殿行ニ拜席ヲ捲キ。住持ノ前ニ香壺ヲ出シ。後方ニ曲象ヲ据ルナリ。每列展拜ノ勢ヲナス。住持之ヲ免持ス。

(初展云) 此際安居禁足。獲奉巾瓶。惟仗和

尚法力資持。願無難事。

(住持答云) 此者多幸。得同安居。亦冀事知

等。法力相資。無諸難事。

(再展云) 即日氣雲漸(夏)熱ス。(冬)寒シ。恭惟堂頭和尙。

○制中行事

尊候起居萬福觸禮三拜。住持答一拜。

○同首座大衆互禮人事

住持巡堂一匝行

手磬一鳴シ。首座大衆又シテ同音ニ唱テ云ク。

此際幸同ニ安居一恐ニ三業不善。且望ツ慈悲ハ。隨テ磬ニ

同展具三拜。了テ出堂。

○同罷巡察兩展三禮致語

罷。粥。豆腐ハ廢止。住持叙話シテ起ツ。衆近前展禮。庫司首座察皆同シ。展拜ノ勢ヲナス。住持之ヲ免停ス。

(初展云) 伏蒙ニ和尙法駕訪臨一。下情不レ任ニ感

激一之至ニ。拜免前

(再展云) 卽日氣雲漸ク。(夏)熱ス。(冬)寒シ。恭惟堂頭和

尙。尊候起居萬福。觸禮三拜。住持答一拜。

○同上堂時間祝語

此日結制令辰。某寺住持某。欽テ爇キ寶香一。端ニ爲ニ

祝延シ上ル。今上皇帝一。又衆北頭面聖壽萬安。欽ニ惟レハ

陛下一。已下祝語ナリ。附スルナリ。

○制中行事

○白槌

語ナ請法問訊畢テ侍者ノ進ミ打槌

一下ク。

法筵龍象衆。當觀第一義。拈則結座畢位ニ歸ルトキ又

進テ打槌一下ク。

諦觀法王法。法王法如是。亦槌ヲ伏セテ位ニ歸ル。

○八月十三日午前楞嚴會滿散

行道誦呪畢テ楞嚴頭

テ云ク。

阿難是佛頂光聚。悉怛多般怛羅秘密伽陀

微妙章句。出生十方一切諸佛。十方如來。因

此呪心。得成無上正徧知覺。十方如來。執此

呪心。降伏諸魔。制諸外道。十方如來。乘此呪

心。坐寶蓮華。應微塵國。十方如來。含此呪心。

於微塵國。轉大法輪。十方如來。持此呪心。能

於十方摩頂授記。白果未成。亦於十方蒙佛

授記。十方如來。依此呪心。能於十方。拔濟群

苦。所謂地獄。餓鬼。畜生。盲聾。瘡癩。怨憎會。苦。

愛別離苦。求不得苦。五陰熾盛。大小諸橫。同時解脫。賊難。兵難。王難。獄難。風水火難。飢渴貧窮。應念銷散。十方如來。隨此咒心。能於十方事。善知識。四威儀中。供養如意。恒沙如來會中。推為大法王子。十方如來。行此咒心。能於十方。攝受親因。令諸小乘。聞秘密藏。不生驚怖。十方如來。誦此咒心。成無上覺。坐菩提樹。入大涅槃。十方如來。轉此咒心。於滅度後。

付佛法事。究竟住持。嚴淨戒律。悉得清淨。

畢摩訶梵ヲ舉ス。同向文ハ。啓建ト同シ。普同三拜散堂。

○春秋十四日晡時解制土地堂念誦

切以(春)金風扇野(秋)青帝司方白當覺皇解制之辰。是法歲周圓之日。九旬無難。一衆咸安。誦持萬德。洪名仰報。合堂真宰。仰憑尊衆。長聲念十佛名衆同音。

○同回向

◎制中行事

三

上來念誦功德。普用回向護持正法土地龍神。伏願神光協贊。發揮有利之勳。梵苑興隆。永錫無私之慶。十方三世云

○春秋十五日朝課罷解制人事行禮兩展三禮致

語進退ハ結制ニ同シ。每列展拜勢ヲナス。住持之ヲ免停ス。

(初展云) 伏喜。法歲周圓。無諸難事。此盖和尙法力。應庇下情。無任感激之至。

(住持答詞云) 此者法歲周圓。皆謝頭首等

法力相資。不任感激之至。

(再展云) 卽日氣雲猶(春)寒。恭惟堂頭和尚。尊候起居萬福。

○同首座大衆互禮人事

進退ハ結制ト同

唱テ同音ニ

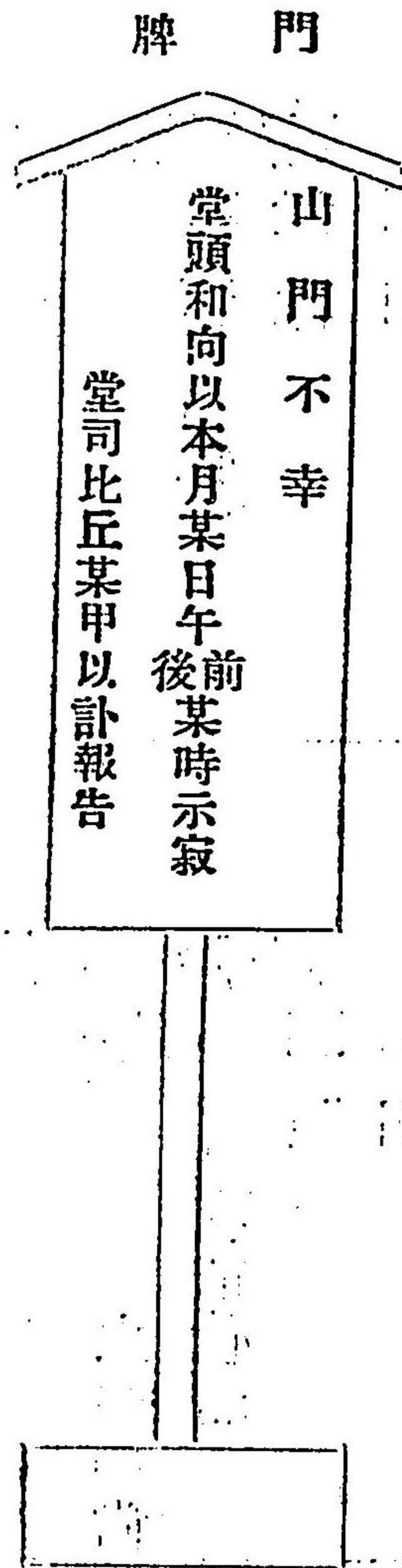
九旬相依。三業不善。惱亂大衆。伏望慈悲。馨ニ隨テ普同展具三拜。了テ出堂。

制中行事(畢)

◎制中行事

尊宿葬法念誦回向

○尊宿喪法



若シ退席ハ堂頭ヲ東堂ト書ス。
 牌長サ二尺五寸許。横六七寸許。圖ノ如ク
 長竿ノ末ニ剉容シテ門傍ニ立ツ。

◎尊宿喪法念誦回向

請喪司諸職勝圖

山門不幸	維那	某甲首座
右具在前伏希	衆悉	堂司比丘某謹白
月日		

請佛事勝圖

山門不幸	入龕	某甲和尚
乘炬	舉鐃	主喪和尚
右具在前伏希	慈照	堂司比丘某謹白
月日		

喪中法行勝圖

山門不幸	某日	午前	後	入龕佛事	念誦	諷經
右伏乞	合山照顧	年月堂司比丘某謹白				

出喪勝圖

山門不幸	行列次第	如左
燒香	某力生	
洒水	某首座	
散華	某藏主	
右具在前伏乞	合山照顧	年月日 堂司比丘某謹白

○請^{スル}喪司^シ諸職^チ勝

山門不幸。伏^ソ值^フ。某大和尚示寂。請^{スル}喪司^シ諸職^チ清衆。維那。某甲首座。知客。某甲藏主。書記。某甲上座。侍真。某甲上座。右具在^ニ前^ニ。伏^ソ希^フ。衆悉。月日。堂司比丘某謹白。

○請^{スル}佛事^チ勝

山門不幸。伏^ソ值^フ。某大和尚示寂。請^{スル}佛事^チ尊衆。

入龕。某寺和尚。移龕。某寺和尚。鎖龕。某寺和尚。掛真。某寺和尚。小參。主喪和尚。起龕。某寺和尚。奠茶。某寺和尚。奠湯。某寺和尚。舉^乗炬^炬。主喪和尚。右具在^ニ前^ニ。伏^ソ希^フ。慈照。月日。堂司比丘某謹白。

○喪中行法勝

山門不幸。伏^ソ值^フ。某大和尚示寂。喪中行法

次第。某日午前後入龕佛事。念誦。諷經。
 某日午前後移龕佛事。諷經。某日午前後掛真佛事。
 鎖龕佛事。諷經。某日午前後掛真佛事。
 諷經。某日晚間對靈小參。念誦。諷
 經。某日午前後起龕佛事。念誦。出喪。
 某日午前後奠茶佛事。奠湯佛事。舉炬佛事。
 念誦。諷經。行。右伏乞。合山照顧。年
 月日。堂司比丘某謹白。

○出喪

山門不幸。伏ニ值フ。某大和尚示寂ニ乃チ以テ本月
 某日午前後出喪ニ行列次第如左。第一燒香
 某力生洒水。某首座。散華。某藏主
 第二彩幡四旒。某上座。某上座。某上
 座。某上座。第三挑燈兩箇。某上座。
 某上座。第四白幡四旒。某行者。某行
 者。某行者。某行者。第五山門維那

◎尊宿喪法念誦回向

堂司行者 第六兩鼓 某上座 某上座
 第七兩鈸 某上座 某上座 第八兩鏡
 某上座 某上座 第九齒木 某行者
 洗面器 某行者 第十淨瓶 某行者
 手巾 某行者 第十一茶盞 某行者
 湯瓶 某行者 第十二剃刀 某行者
 砥石 某行者 第十三襪子鞋子 某行
 者 第十四帽子蒲團 某行者 第十五

念珠香合 某行者 第十六寶印 某行
 者 第十七竹篋 某侍者 拄杖 某侍
 者 第十八拂子 某侍者 如意 某侍
 者 第十九法衣 某小師 法鉢 某小
 師 第二十法脈 某小師 第二十一兩
 提鑪 某上座 某上座 第二十二白幡
 四旒 某上座 某上座 某上座 某上
 座 第二十三靈牌 某師孫 第二十四

◎尊宿喪法念誦回向

法蓋 某行者 第二十五靈龕 某小師
 某師孫 某上座 第二十六法炬一個 某上
 座 第二十七 主喪五侍者 第二十八
 大衆檀越尼女等 第二十九押喪某監
 寺 右具在前伏乞 合山照顧。年月日
 堂司比丘某謹白。

○念誦回向

○入龕念誦

切スニ以シ善ニ權ハ普ク示シ分ク化ス跡ヲ於テ人ノ天ニ妙ニ體ヲ獨リ存シ越ス
 玄ニ機ヲ於テ佛ノ祖ニ恭ク惟レ 某大和尚孤圓智月俄
 收メ萬ノ水ノ之ノ光ヲ廣ク大ニ悲ヲ乘シ却テ應ス十ノ方ノ之ノ感ニ瞻ル顏ヲ
 無ク地ヲ披キ志ヲ有リ歸ス茲ニ集メ真ニ徒ヲ讚シ揚ス聖ノ號ヲ仰テ憑テ大
 衆ノ念ヲ常ニ佛ノ名ヲ大ニ衆ノ同ニ音ヲ如シ

○回 向

上來稱揚聖號ヲ獻ス茶ノ湯ヲ諷ス經ノ功ノ德ヲ奉リ爲シ 某大
 和尚無生國中妙覺莊嚴ノ世ノ云ニ

◎尊宿喪法念誦回向

○移 龕

念誦ナシ。鎖龕掛眞之ニ同シ。但々獻茶湯諷經回向。

○回 向

上來移龕獻湯。諷經功德奉爲。某大和尚。

增崇品位十方三世云

鎖龕ハ上來鎖龕獻湯。掛眞ハ上來掛眞獻湯ト云フ
ハシ。餘ハ之ニ同シ。

○逮夜念誦

自大衆某大和尚已歸眞宗是日已過命亦

隨滅如少水魚斯有何樂衆等當勤精進如
救頭然但念無常慎勿放逸恭集大衆肅詣
龕幃誦持萬德之洪名奉爲增崇於覺路仰
憑大衆念十佛名如常

主喪獻茶湯シテ大悲呪ニテ回向。

○回 向

上來念誦獻湯。諷經功德奉爲新入涅槃
某大和尚資助尊靈增崇法位十方三世云

○起 龕

山門維那先ツ起龕ノ念誦ヲ舉ス。コノ念誦ハ引カス。急ニヨム古例ナリ。

○念 誦

金棺既舉。遶拘尸之大城。幢幡搖空。赴茶毘之盛禮。全身入塔。茶仰憑大衆稱讚。洪名用

表攀幃。上資助覺路念。十佛名如常。了テ喪司ノ維那。起龕ノ人ヲ揖請

ス。當人燒香法語了テ。獻茶湯ノ時。先ツ首座高聲ニ諸行無常ノ偈ヲ舉ス。衆和シテ唱フル。ユト三返シテ了テ。山門維那。勸請ノ樂ヲ奏シ。聖號(十佛名)ヲ唱ヘテ出喪ス。

○山頭念誦

切以是日有新涅槃某大和尚化緣已畢。遂

返眞常。入火光之三昧。破冥闇於十方。

掩土忽隱。一期幻影乃現。六大法身仰憑大衆

資助尊靈念。佛名如常

○回 向

上來稱揚聖號。恭贊化儀。體極先宗。峻機不容於佛祖。用開後學。悲心乃撫於人天。變幻

化之百骸ヲ入ル圓寂之四德ニ茶傾三奠ニ香一
罍ニ頂戴奉行和南聖衆。了テ回向大悲呪。

○回向

上來念誦諷經功德奉為ニ某大和尚之茶毘
入塔增崇品位一〇世十方三
了テ楞嚴呪ヲ平舉シテ遊行ス

○回向

上來旋遶諷經功德奉為ニ某大和尚之茶毘

之入塔增崇品位一〇世十方三

○喪儀幡文

○彩幡四旒

佛無上大涅槃 法圓明常寂照 僧凡夫
謂之死 寶外道執為斷

○白幡四旒

佛如來證涅槃 法永斷於生死 僧若有
至心聽 寶常得無上樂

◎尊宿喪法念誦回向

六

○白幡四旒

佛諸行無常法是生滅法僧生滅滅已

寶寂滅爲樂

○平僧喪法 念誦回向等在家喪法ニ同シ故ニ略ス。

在家葬法念誦回向

○在家喪法念誦回向

○入龕諷經回向

上來諷誦大悲心陀羅尼功德回向新歸元
某信女士所冀入棺之次莊嚴報地十方三世云

○龕前念誦

切以生死交謝寒暑互遷其來也電激長空
其去也波停大海是日即有新歸元某信女士

◎在家葬法念誦回向

二

生緣已盡^ニ大命俄落^ル了^テ諸行無常^{ナル}以^テ寂滅^ス爲^レ樂^ト恭請^ク現前清衆^ニ謹誦^ス諸聖洪名^ヲ所集^ル鴻福^ハ莊嚴^ス覺路^ヲ仰憑^テ清衆^ヲ念^ス十佛名^ヲ了^テ舍利禮文^ヲ

○回向

上來念誦諷經功德^ハ回向^シ新歸元某信女^ト莊嚴報地^ヲ伏願^シ神超^ス淨域^ニ業謝^シ塵勞^ヲ蓮開^キ上品之花^ヲ佛授^メ一生^ノ之記^ヲ再勞^メ清衆^ヲ念^ス十方三世云云

○舉棺念誦

欲^ス舉^グ靈棺^ヲ趣^ク掩土^ノ之盛禮^ニ仰憑^テ清衆^ヲ誦^ス諸聖之洪名^ヲ用^ニ表攀^ル幃^ノ上資^ヲ助覺路^ヲ念^ス十佛名^ヲ了^テ向^{ナシ}。

○山頭念誦

是日即有^テ新歸元某信女^ト既隨^テ緣^ニ而寂滅^ス乃依^テ法^ニ而掩土^ス埋^テ茶毘^ス焚^テ百年^ノ弘道^ノ之身^ヲ入^リ一^ニ路涅槃^ス之徑^ニ仰憑^テ清衆^ヲ資^ニ助覺靈^ヲ念^ス十佛名^ヲ

○回向

◎在家葬法念誦回向

三

◎在家葬法念誦回

上來稱揚聖號資助覺靈唯願慧鏡分輝眞
風散彩菩揚園裡開敷覺慧之華法性海中
活動無垢之波茶傾三奠香爇一爐奉送雲
程和南聖衆楞嚴呪或ハ大

○送棺回向

上來念誦諷經功德回向新歸元某信士掩士女茶毘
之次莊嚴報地十方三世云

○安位諷經回向

上來諷誦大悲心陀羅尼功德回向某信士女
所冀安位之次莊嚴報地十方三世云

○大幡文

佛諸行無常 法是生滅法 僧生滅滅已

寶寂滅爲樂

○小幡文

迷故三界城 悟故十方空 本來無東西
何處有南北

◎在家葬法念誦回向

◎在家葬法念誦回向

○天蓋幡

一切有爲法 如夢幻泡影 如露亦如電
應作如是觀

○剃髮偈

流轉三界中 恩愛不能斷 棄恩入無爲
眞實報恩者

○中陰忌名

開蓮忌(命日) 初願忌(初七日) 以芳忌(二七日) 洒水

忌(三七日) 阿經忌(四七日) 小練忌(五七日) 檀弘忌(六
七日) 大練忌(七七日)

○追善忌名

卒哭忌(百々日) 小祥忌(一周年) 大祥忌(三年) 休廣
忌(七年) 稱名忌(十三年) 慈明忌(十七年) 思實忌(廿
三年) 清淨本然忌(卅三年) 阿圓忌(五十年) 照光忌
(百年)

○卒塔婆文

年回ノ數人ノ一定ナラス。且ツ卒塔婆ノ
書様モ。其人ノ識見ニ由ルナリ。今只初

◎在家葬法念誦回向

◎在家葬法念誦回向

心ノ便ニ雛形
ヲ示スノミ

○尸羅會供養塔

大圓鏡智。恭惟。茲勤修大菩薩戒會。所集功德。專祈。國家安穩。五穀成就。十方施主。家道興隆者。(以上正面)

妙觀察智。銘曰。彈指圓成八萬門。刹那超證達心源。稱名禮佛人天裡。戒雨香烟淨諸根。(以上右面)

成所作智。戒如大明燈。能消長夜闇。戒如真寶鏡。照法盡無遺。戒如摩尼珠。雨物濟貧窮。離世速成佛。唯此法為最。(以上左面)

平等性智。維時曆年月日住持比丘某謹謹建之。(以上裏面)

○祈禱會高顯

大圓鏡智。謹奉轉讀大般若六百軸。所祈國土昇平。大小檀那。福壽長久。町村內安全。障災

◎在家葬法念誦回向

消除。諸緣吉祥。(以上正面)

妙觀察智。銘曰。狂風淫雨忽晴來。大地山河
氣快哉。神識逍遙炎熱外。薰風一陣絕塵埃。

(以上右面)

成所作智。總持猶妙藥。能療衆惑病。亦如天

甘露。服者常安樂。(以上左面)

平等性智。維時曆年月日。堂頭某謹建之
(以上裏面)

○無緣供養塔

大圓鏡智。茲以勤修大施食法會。供養十方
檀那各家門先亡累代諸精靈。開發正智塔。

(以上正面)

妙觀察智。銘曰。返照從來一心性。菩提煩惱
好生涯。即今法喜和禪悅。飢飽雙消十二時。

(以上右面)

成所作智。願汝各各。受我此食。轉將供養。盡

◎在家葬法念誦回向

虛空界。諸佛及聖。一切有情。汝與有情。普皆
飽滿。(以上左面)

平等性智。維時曆年月日信心施主某某
造立之。(以上裏面)

○開蓮忌

銘曰。一華開五葉。結果自然成。為(法名)開蓮忌薦福塔。

(裏文)世實危脆。無牢固者。

○初七日忌

南無寶勝如來。為(法名)初願忌資福塔。

(同)遠離欲界。頓歸無為。

○二七日忌

南無多寶如來。為(法名)以芳忌冥福塔。

(同)除慳貪業。福智圓滿。

○三十七日忌

南無妙色身如來。為(法名)洒水忌回向塔。

(同)破醜陋形。圓滿相好。

◎在家葬法念誦回向